

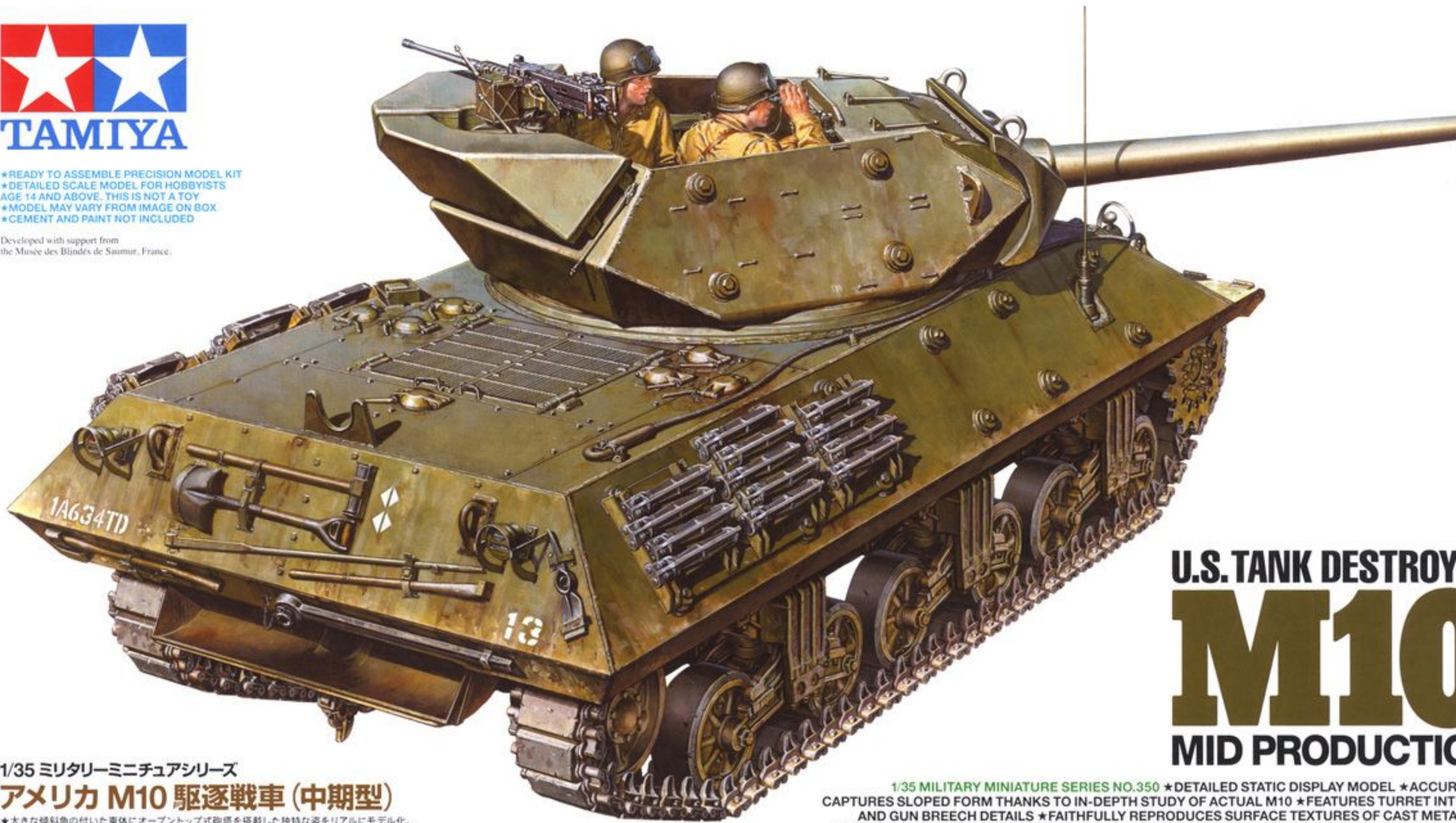


List All Images [Share](#) [Tweet](#)



★READY TO ASSEMBLE PRECISION MODEL KIT
★DETAILED SCALE MODEL FOR HOBBYISTS
★AGE 14 AND ABOVE. THIS IS NOT A TOY
★MODEL MAY VARY FROM IMAGE ON BOX
★CEMENT AND PAINT NOT INCLUDED

Developed with support from
the Musée des Blindés de Saumur, France.



U.S. TANK DESTROYER M10 MID PRODUCTION

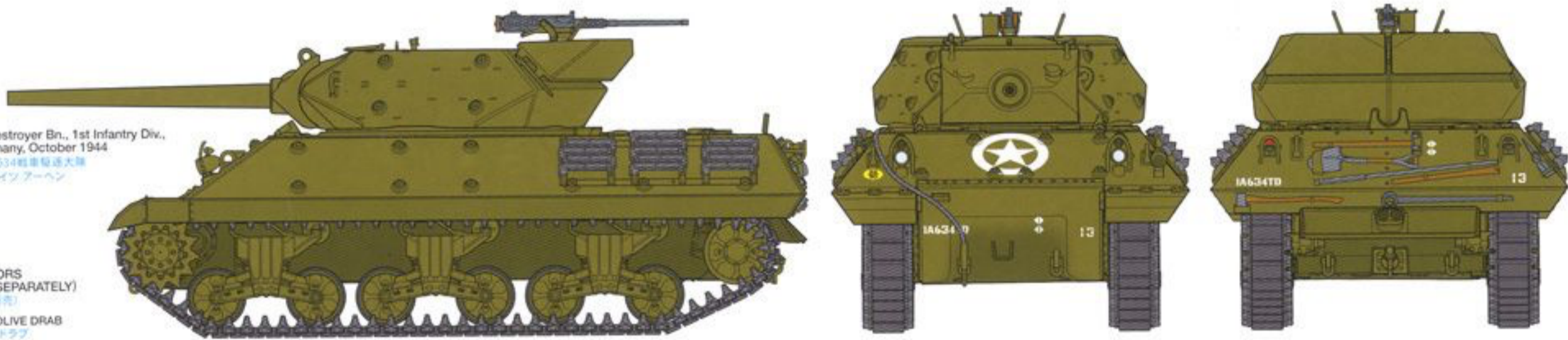
1/35 ミリタリーミニチュアシリーズ アメリカ M10 駆逐戦車 (中期型)

★大きな傾斜角の付いた車体にオープントップ式砲塔を搭載した独特な姿をリアルにモデル化。
★砲塔内部も立体感豊かに再現。★戦闘状態の緊迫感ある乗員の人形3体をセット。
★デカール2種類付き。接着剤・塗料別売

1/35 MILITARY MINIATURE SERIES NO.350 ★DETAILED STATIC DISPLAY MODEL ★ACCURATE CAPTURES SLOPED FORM THANKS TO IN-DEPTH STUDY OF ACTUAL M10 ★FEATURES TURRET INTERIOR AND GUN BREECH DETAILS ★FAITHFULLY REPRODUCES SURFACE TEXTURES OF CAST METAL WELDED AREAS ★ASSEMBLE WITH OPEN OR CLOSED DRIVER'S HATCH ★BELT-TYPE RECREATION OF T51 TRACKS ★COMES WITH 3 FIGURES AND 2 EUROPEAN THEATER MARKING OPTIONS

634th Tank Destroyer Bn., 1st Infantry Div.,
Aachen, Germany, October 1944
第1歩兵師団 第634戦車駆逐大隊
1944年10月 ドイツ アーヘン

TAMIYA COLORS
(AVAILABLE SEPARATELY)
タミヤカラー(別売)
● TS-5 OLIVE DRAB
オリーブドラブ



U.S. TANK DESTROYER M10 MID PRODUCTION

《M10駆逐戦車について》強力なドイツ戦車に対抗するため、アメリカ軍初の駆逐戦車として開発されたのがM10です。ディーゼルエンジンを搭載したM4A2シャーマン戦車のシャーシを流用し、オープントップ式の旋回砲塔に強力な3インチ(76.2mm)砲を搭載。車体上部や砲塔は避弾経始に優れた傾斜装甲を採用し、姿勢の低いシルエットを実現しました。また機動力を優先させたため装甲厚は控え目でしたが、必要に応じて増加装甲が取り付けられるよう、車体や砲塔にはあらかじめボルトを装備。1942年9月から1943年12月までに5,000輦近くが生産されました。機動力と火力に優れたM10は、1943年3月の北アフリカ戦線で初めてドイツ軍と砲火を交え、イタリア戦線や北西ヨーロッパ戦線、太平洋戦域でも戦車駆逐大隊の主力装備として奮戦しました。《模型要目》アメリカ軍のM10駆逐戦車の1/35スケール、プラスチックモデル組み立てキットです。★全長196mm、全幅88mm。実車取材に基づいて、車体上部や砲塔に傾斜装甲を持つ独特な姿をリアルにモデル化。★3インチ砲の装填部など砲塔内部、開口部から見える車体内部も立体感豊かに再現。★防盾やフロントノーズの構造模様、車体上部や砲塔の溶接模様も繊細なモールドで表現しました。★開閉選択式のドライバーズハッチにはペリスコープもパーツ化。★T51型ゴム製履帯はリアルで手軽なベルト式を採用。★オープントップの砲塔に収まる人形は戦闘中の緊迫感あふれる乗員3体をセット。★ヨーロッパ戦線の戦車駆逐大隊所属車のデカール2種類付き。

©2016 TAMIYA MADE IN JAPAN



株式会社タミヤ www.tamiya.com
〒422-8610 静岡県駿河区
TAMIYA, INC. 3-7 ONDAWARA-1
SHIZUOKA 422-8610 JAPAN

1/35th SC
アメリカ M10 駆
(中期型)



TAMIYA AMERICA, INC. IF
TAMIYA EUROPE, LTD.
Werkstr. 1, 90765 Fürth (B)

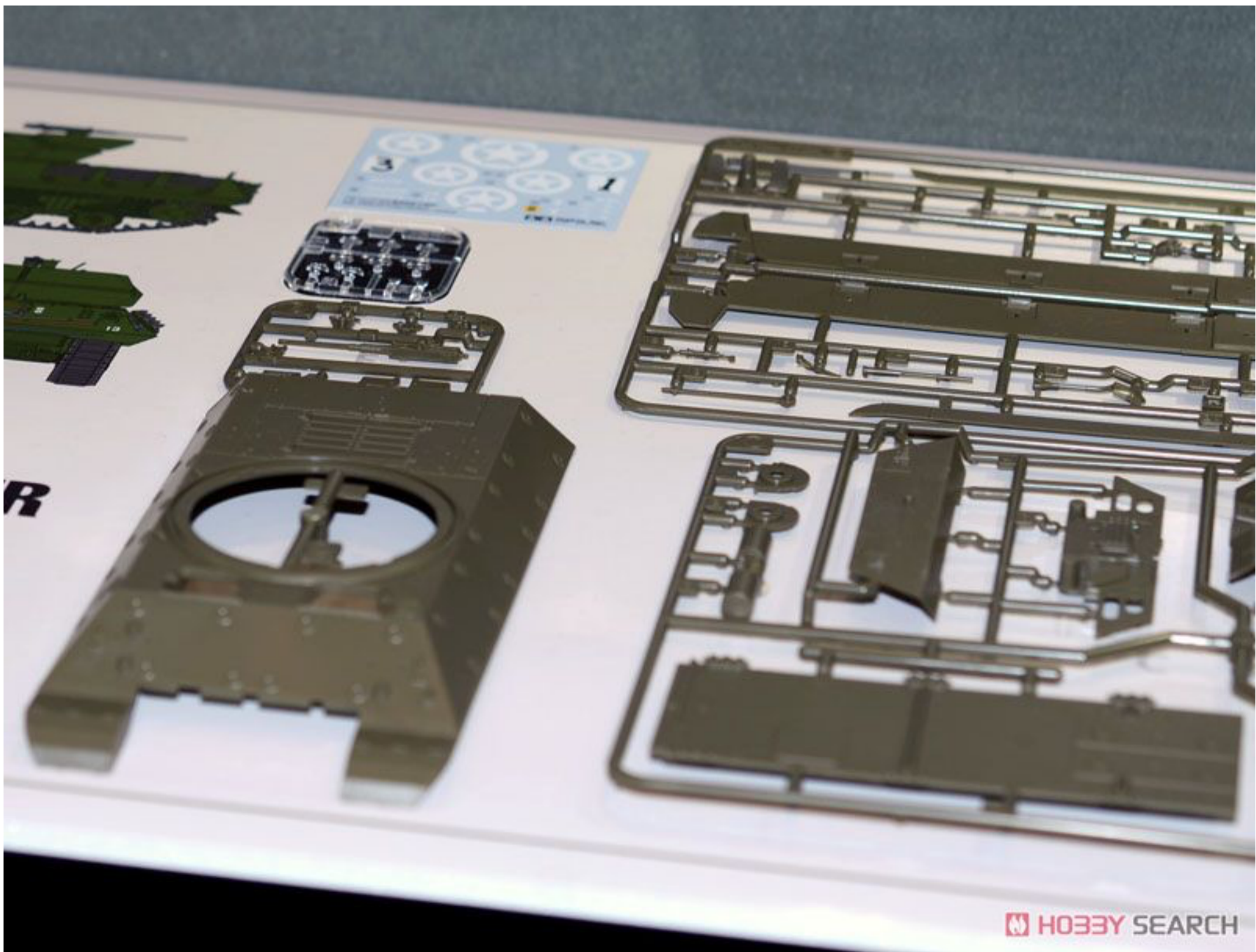


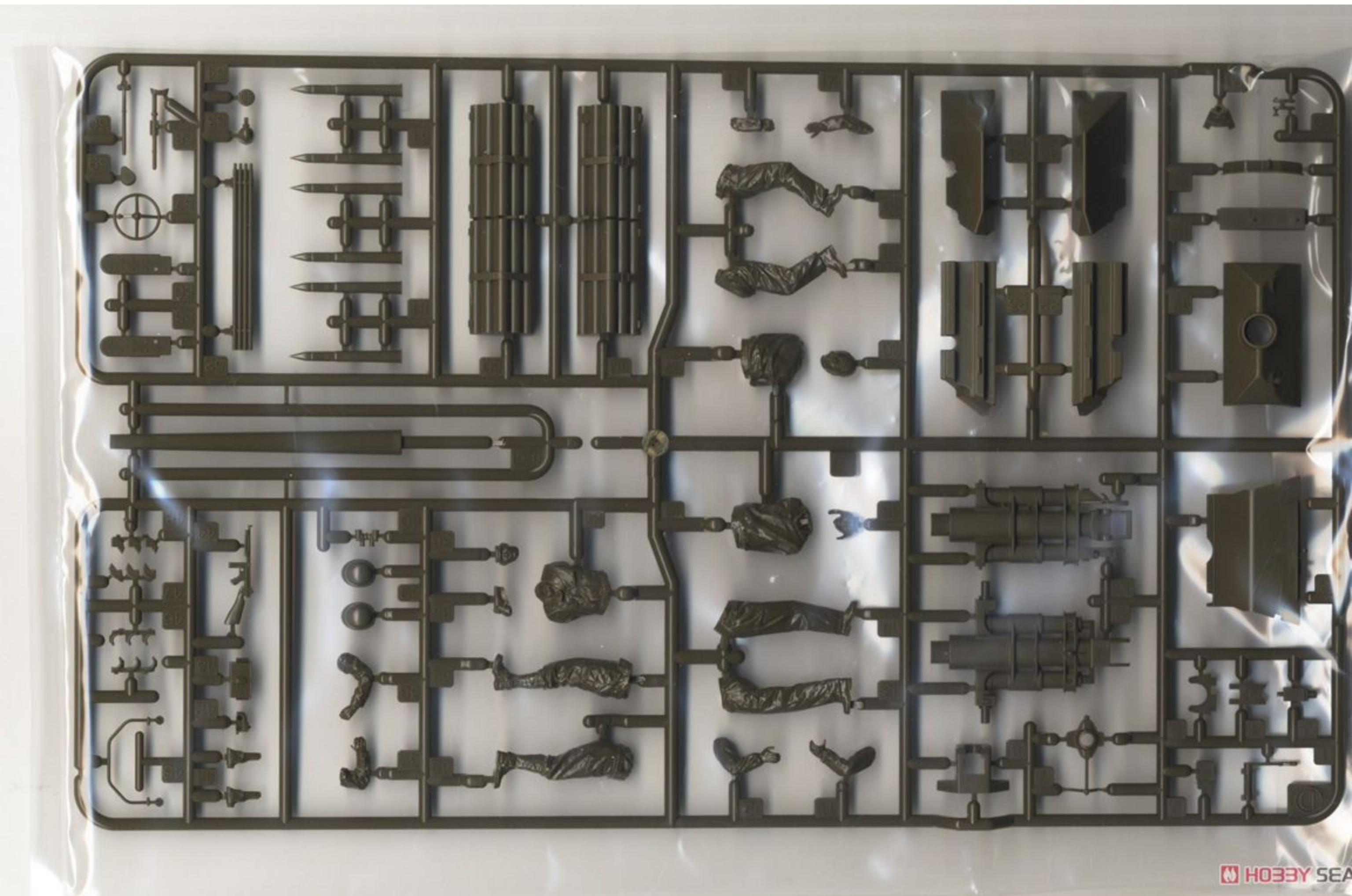
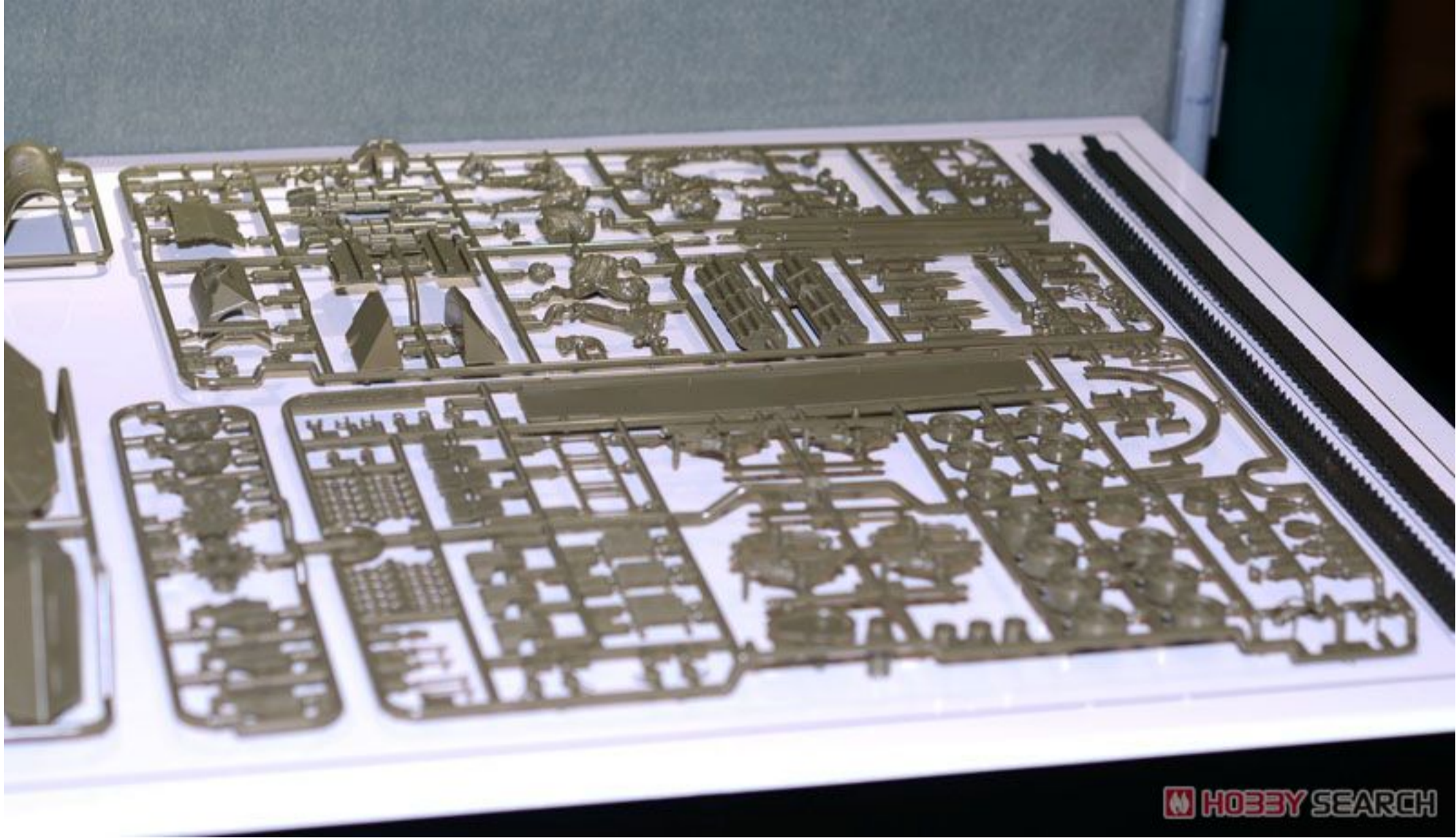


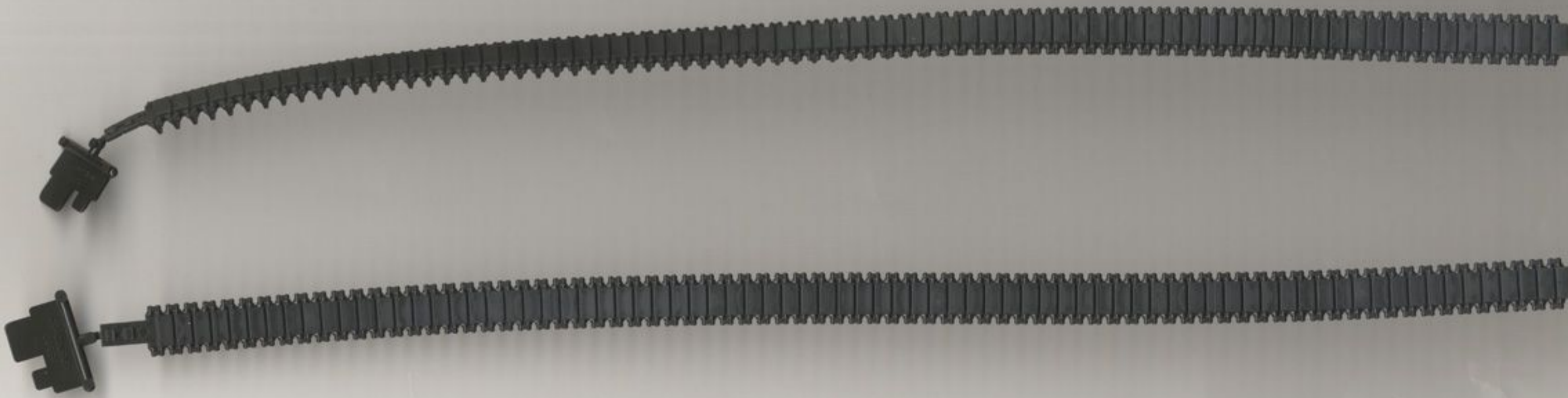
HOBBY SEARCH

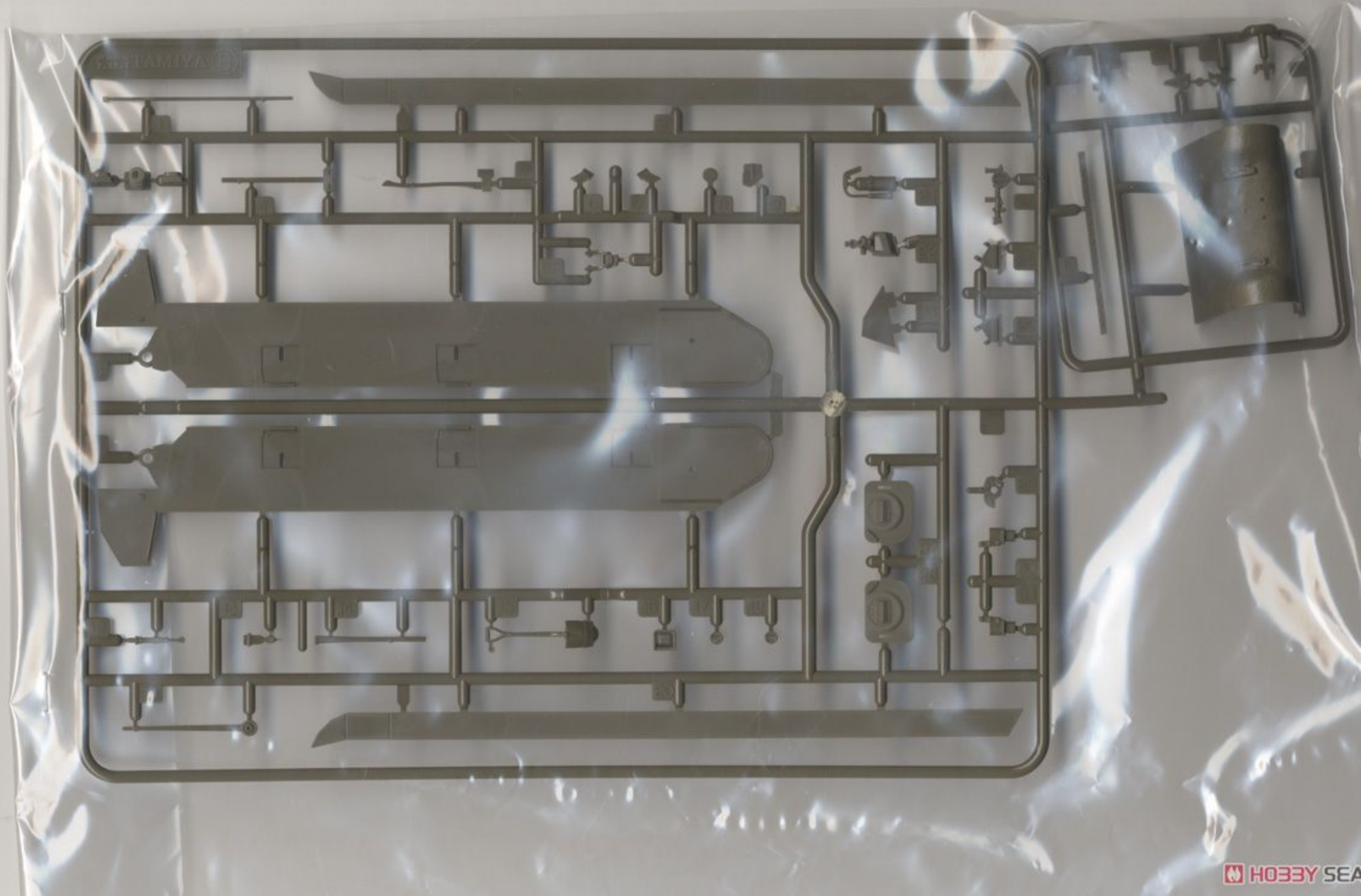


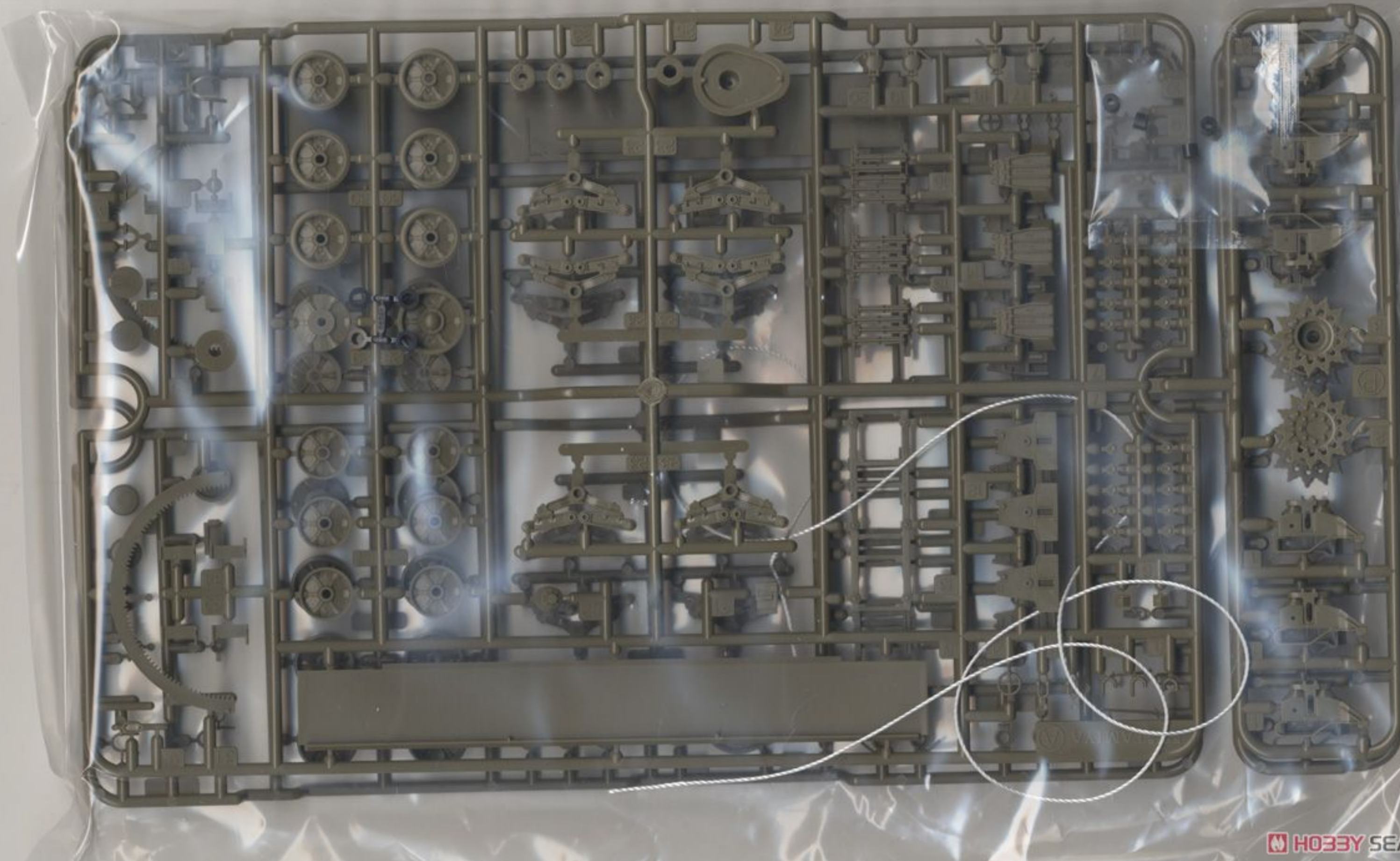
HOBBY SEARCH











Hobby Sea

■アメリカ軍の駆逐戦車開発

第二次大戦における、アメリカ軍の戦車開発の契機となったのは、1940年6月、ドイツ軍の電撃戦によるフランスの敗北でした。これはつなぎ役としてのM3中戦車、そして主力戦車となるM4中戦車の開発へとつながりました。一方アメリカ軍では、戦車とは別の系統の装甲車輛も開発。それが駆逐戦車でした。戦車が突破戦闘に専念する一方で、駆逐戦車は敵戦車の突破に対抗する役割を担っていたのです。司令部直轄の対戦車部隊として、戦車駆逐大隊が編成されましたが、当時はまだこの種の任務に適した車輛は存在しませんでした。このため、3/4トントラックに37mm砲を搭載したM6 GMC（自走砲）と、M3ハーフトラックに75mm砲を搭載したM3 GMCを戦車駆逐車として使用。しかし、これらは暫定的な解決策に過ぎませんでした。新たに開発されることになったのが、強力な武装を備え、高い機動性を持つ全装軌式の自走砲架、いわゆる駆逐戦車でした。

全装軌式として最初に開発された自走砲架は、砲兵牽引車に3インチ砲を搭載したT1で、いったんはM5として生産が決定。しかし、オープントップで防盾しかない砲を限定旋回式に装備した車輛では実用性が低いとして、生産は撤回されました。続いてM3中戦車にオープントップの戦闘室を設け、3インチ砲を限定旋回式に搭載したT24を開発。T24はその後改良されてT40となり、1942年4月にM9として制式化されます。しかし本車は結局、機動性や搭載砲の性能などに問題があり生産中止となりました。

■M10駆逐戦車の開発

T24の試験結果によりいくつかの改善点が認識されましたが、その中のひとつが、360度全周旋回式に武装を搭載することでした。これを受けて1941年11月、当時生産が開始されつつあったM4A1中戦車をベースに、3インチ砲を全周旋回砲塔式に搭載した駆逐戦車の設計案がT35としてまとめられました。12月には本車はM4A2中戦車をベースに製作することに改められ、1942年1月に木製モックアップを製作。その砲塔は円筒形で、上面と後面がオープンとなっていました。これは駆逐戦車部隊の運用思想に則って、乗員による素早い索敵ができるように考えられたものでした。主砲は試作中のM6重戦車用として開発されたもので、

0516 ©2016 TAMIYA

砲架もM6によく似たものとなっていました。設計作業が進む間に、フィリピンでの日本軍との戦闘で、傾斜装甲が有効であることが戦訓として伝えられました。これを受け、駆逐戦車の設計には、傾斜装甲を取り入れることと、できるだけシルエットを低く抑えることが求められました。

新型駆逐戦車の詳細設計はゼネラルモーターズ社フィッシャー戦車部門でまとめられ、1942年4月、T35とT35E1の2種類の試作車輛が完成しました。このうちT35は、車体はM4A2中戦車と同じデザインでしたが、軽量化のため側面・後面の装甲厚を38.1mmから25.4mmに削減。一方T35E1は、前記の要求を取り入れて、上部車体が前後左右ともなだらかに傾斜した、スマートな形状となっていました。装甲厚は側面が25.4mmとされ、側面上部下側には短いスカートを装備。砲塔は鋳造製でそろばんの玉のような形状になり、上面はオープンのままでしたが後面は装甲が施されました。2つの車輛は戦車試験場でテストを実施。その結果1942年6月、T35E1がより有力と判断され、M10駆逐戦車として制式採用されたのです。M10の生産は1942年9月に開始され、1943年12月までに4,993輛が完成。一方、後述のM10A1は1942年10月から1944年1月までに1,713輛が生産されました。

■M10駆逐戦車の構造

M10は制式化にあたって、試作車輛とは多くの箇所が変更されました。車体は基本的な形状に変わりはありませんが、さらに重量を削減するため装甲厚が車体前面上部は38.1mm、側面上部は19.05mmとなっていました。各部の装甲が控え目なのは確かですが、それでも車体上部、砲塔は



関しては避弾経始が良好な分、装甲防御力はある程度補われているといえるでしょう。また不足する装甲を補うため、必要に応じて増加装甲が追加できるように、車体上部の前面と側面、砲塔側面には、特徴的な六角ナットの取り付け部があらかじめ設けられていました。車体下部は走行装置も含めて、基本的に原型のM4A2と同一でした。ただし装甲厚は車体上部同様削られていて、側面・後面ともに25.4mm、床面はすべて12.7mmでした。

砲塔は鋳造製では防御力が劣るとして、圧延鋼板製の五角形のものに変更。装甲厚は防盾が57.15mm、側面・後面が25.4mm、上面は前述の通りオープントップでした。なお砲塔のバランスを改善するため、生産型では砲塔後部にカウンターウェイトを装備することになりました。これは初期には応急の箱形をしていましたが、後により整った形状の楔形のものに変更。後期にはさらにカウンターウェイト形状が変化するとともに、砲塔後部形状も変化して壁面が垂直に近くなり内部容積が増大しました。

主砲は3インチ戦車砲M7で、M5砲架を介して取り付けられていました。その原型は3インチ高射砲で、口径は76.2mm、砲身長50口径。APC弾（被帽付徹甲弾）を使用して初速792m/s、装甲貫徹力は射距離914mで厚さ88mm、1,829mで75mmとなっていました（傾斜角はすべて30度）。これは原型であるM4A2の75mm戦車砲の、射距離914mで60mmに比べて大幅に勝っており、まさに「駆逐戦車」にふさわしい性能といえるでしょう。なお、1944年8月（実際の部隊配備は11月）には、より強力な貫徹力を有するHVAP弾（高速徹甲弾）が導入されました。これは初速1,036m/s、射距離914mで厚さ135mm、1,829mで98mmの装甲板を貫徹可能で、パンサーの前面装甲を撃ち抜くことができました。ただしその供給数は限られており、最後の切り札といえる存在でした。

エンジンには原型のM4A2と同じ、ゼネラルモーターズ6046液冷ディーゼルを搭載。興味深いのは、原型のM4シリーズ同様、エンジンが異なるバージョンのM10A1が生産されたことです。これは増加する駆逐戦車の需要を満たすため、ベース車体にM4A3を用いたもので、フォードGAAガソリンエンジンを搭載。ただし、M10A1は訓練のみに使用され、実戦部隊には配備されませんでした。

■M10駆逐戦車の戦歴

アメリカ軍のヨーロッパ戦域での戦いは、1942年11月8日の北アフリカ上陸作戦から開始。同戦域で最初に実戦投入されたM10装備部隊は、1943年3月に到着した第776お

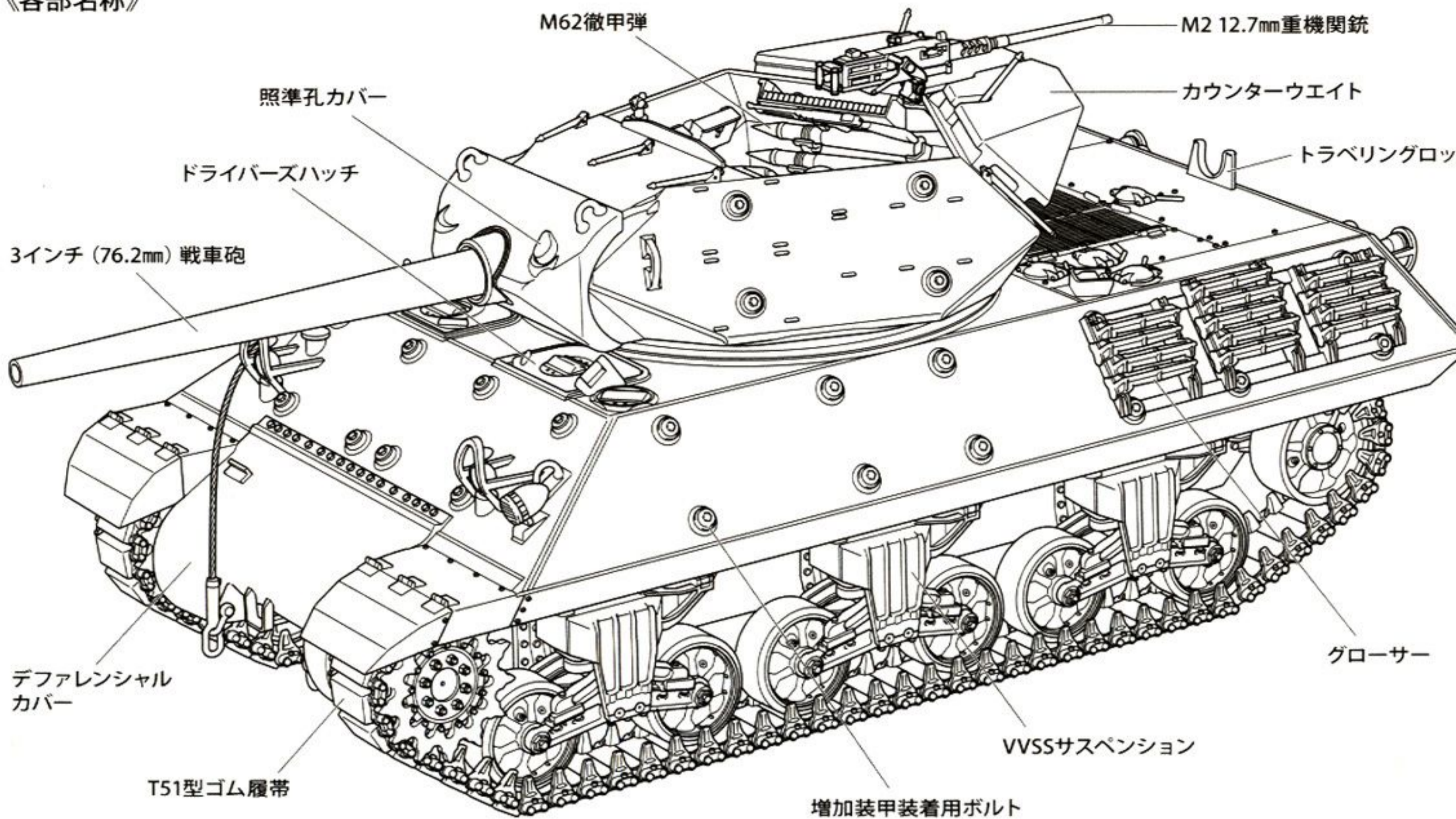
よび第899戦車駆逐大隊でした。このうち第899大隊C中のM10は、3月23日のチュニジアのエル・ゲタルの戦いでドイツ軍の第10戦車師団のIV号戦車を痛撃して撃退。さらに彼らは4月9日にはアメリカ軍部隊として初めて、エプトから進撃してきたイギリス第8軍部隊と連絡する栄誉輝いたのです。続くイタリア戦線にもM10を装備した戦車駆逐大隊は投入されました。北アフリカでも戦った（当時はM10を装備せず）第601戦車駆逐大隊は、1943年9月レルノに上陸し、その後アンツィオに転じました。アンツィオでは、海岸堡に対するドイツ軍の反撃を撃退。そして1944年8月には、ドラグーン作戦に参加して南フランス上陸し、さらにフランスからドイツ本土へ進撃しています。

ノルマンディ上陸作戦にも、M10を装備した戦車駆逐大隊は加わっています。そのうちのひとつ第634戦車駆逐大隊は、1944年6月30日ユタビーチに上陸した後、7月10日にはカランタン周辺でドイツ軍と激戦を演じました。7月わりにはコブラ作戦に参加しマエナム占領を助け、8月初にはモルタンでドイツ軍の反撃を撃退。その後、大隊はアメリカ軍の快進撃に加わり、フランスからベルギーへと撃。ここでは対戦車戦闘はほとんどなく、もっぱら歩兵援が主任務でした。10月にはドイツ本土のアーヘンに入し、大隊はさらに激戦となったヒュルトゲンの森の戦いも参加。すでに9月には、武装を90mm砲に強化した新型駆逐戦車M36がヨーロッパに到着していましたが、それ以外にもM10は前線でM36と肩を並べてドイツの敗北まで戦いけたのです。なおM10は太平洋の作戦にも参加しており1944年2月のケゼリンの戦い、1944年6月のパラオのいでも使用されました。M10はアメリカ軍が初めて実戦投入した駆逐戦車として歴史に名を残しています。

■M10駆逐戦車 諸元

- 全長：6,828mm、●全幅：3,048mm、●全高：2,896mm
- 全備重量：29.574トン、●乗員：5名
- エンジン：ゼネラルモーターズ 6046 2ストローク直列12気筒液冷ディーゼルエンジン
- 出力：410馬力/2,900回転、●最大速度：48.28km/h
- 航続距離：322km(路上)
- 武装：3インチ(76.2mm)戦車砲M7×1、12.7mm M2重機関銃×2
- 弾薬搭載数：主砲 54発、機関銃 1,000発
- 装甲厚：[車体] 前面上部38.1mm、前面下部50.8mm、側面上部19.05mm、側面下部25.4mm、後面上部19.05mm、後面下部25.4mm
- [砲塔] 防盾57.15mm、側面25.4mm、後面25.4mm

《各部名称》



US M10 Mid Production (1945-1948)

PAINTS REQUIRED

● 塗装指示のマークです。タミヤカラーのカラーナンバーで指示しました。

This mark denotes numbers for Tamiya Paint colors.

TS-5 ● オリーブドラブ / Olive drab / Braun-Oliv / (XF-62) Vert olive

X-1 ● ブラック / Black / Schwarz / Noir

X-7 ● レッド / Red / Rot / Rouge

X-10 ● ガンメタル / Gun metal / Metall-Grau / Gris acier

X-11 ● クロームシルバー / Chrome silver / Chrom-Silber / Aluminium chromé

X-12 ● ゴールドリーフ / Gold leaf / Gold Glänzend / Doré

X-18 ● セミグロスブラック / Semi gloss black / Seidenglanz Schwarz / Noir satiné

XF-1 ● フラットブラック / Flat black / Matt Schwarz / Noir mat

XF-2 ● フラットホワイト / Flat white / Matt Weiß / Blanc mat

XF-15 ● フラットフレッシュ / Flat flesh / Fleischfarben Matt / Chair mate

XF-49 ● カーキ / Khaki / Khaki / Kaki

XF-51 ● カーキドラブ / Khaki drab / Braun-Khaki / Vert kaki

XF-56 ● メタリックグレイ / Metallic grey / Grau-Metallic / Gris métallisé

XF-57 ● バフ / Buff / Lederfarben / Chamois

XF-59 ● デザートイエロー / Desert yellow / Sandgelb / Jaune désert

XF-60 ● ダークイエロー / Dark yellow / Dunkelgelb / Jaune foncé

XF-64 ● レッドブラウン / Red brown / Rotbraun / Rouge brun

XF-84 ● ダークアイアン (履帯色) / Dark iron / Dunkels Eisen / Fer foncé

XF-85 ● ラバーブラック / Rubber black / Gummischwarz / Noir caoutchouc

HOBBY SEASIDE

ASSEMBLY

- 組立説明図の中で塗装指示のない部品はTS-5 (XF-62)で塗装します。
- When no color is specified, paint the item with TS-5 (XF-62).
- Wenn keine Farbe angegeben ist, Teile mit TS-5 (XF-62) bemalen.
- Lorsqu'aucune teinte n'est spécifiée, peindre en TS-5 (XF-62).

《使わない部品》 / Not used. A6x1, A7x12, A9x1, A17x1, A25, A33x1, A34x1, A35
 Nicht verwenden. / Non utilisées. A38x1, A39x1, E1, E2, E3, E6, E7, E8, N1

1 車体下部の組み立て1
 Lower hull 1
 Wannen-Unterteil 1
 Caisse inférieure 1

注意!
 CAUTION
 ★指示の番号、①、②の順で取り付けます。
 ★Attach parts in numbered order ①, ②.
 ★Die Teile in der nummerierten Reihenfolge
 ①, ② anbringen.
 ★Fixer les pièces dans l'ordre des
 numéros ①, ②.

2 デファレンシャルカバーの組み立て
 Differential cover
 Differential-Abdeckung
 Couverture de differential

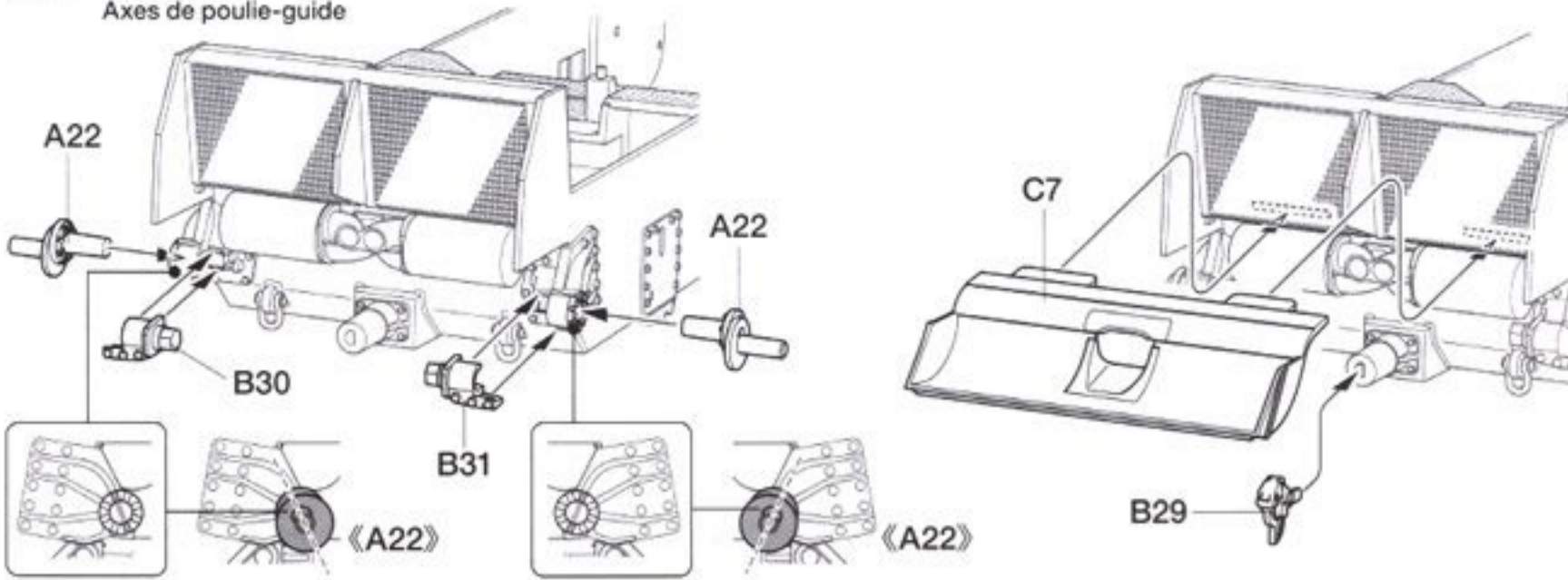
指示の部分を切り取ります。
 Cut off.
 Wegschneiden.
 Découper.

《R6》裏側 / Other side
 Andere Seite / Autre côté

3 リヤパネルの組み立て
 Rear panel
 Heckplatte
 Panneau arrière

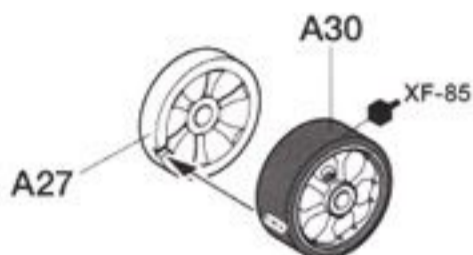
4 車体下部の組み立て2
 Lower hull 2
 Wannen-Unterteil 2
 Caisse inférieure 2

5 アイドラーシャフトの組み立て
Idler shafts
Spannwelle
Axes de poulie-guide



6 《ロードホイール》
Road wheels
Laufräder
Roues de route

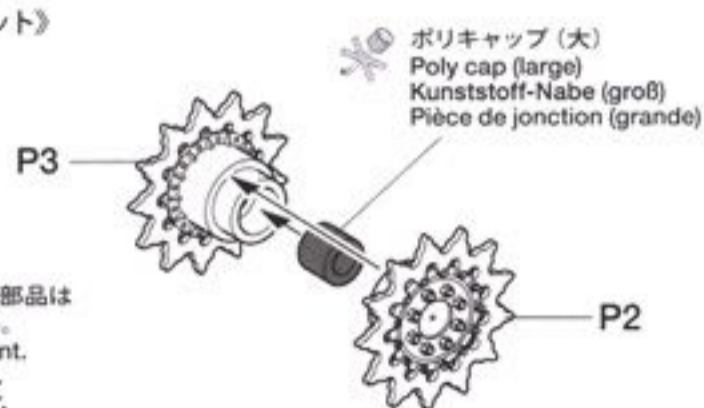
★12個作ります。
★Make 12.
★12 Satz anfertigen.
★Faire 12 jeux.



《ドライブスプロケット》
Drive sprockets
Kettentreibräder
Barbotins

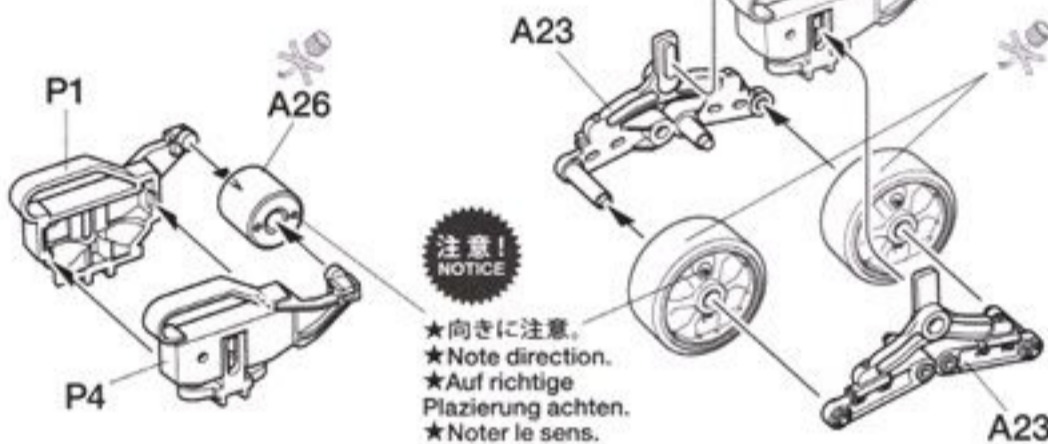
★2個作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.

このマークの部品は
接着しません。
Do not cement.
Nicht kleben.
Ne pas coller.

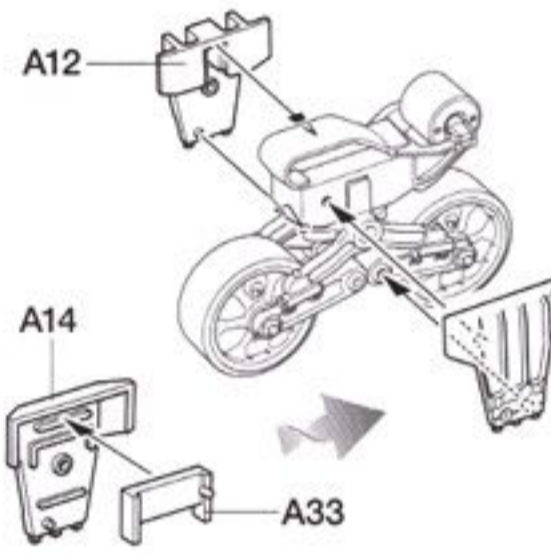


7 《サスペンション》《L》
Suspension
Radaufhängung
Suspension

★3個作ります。
★Make 3.
★3 Satz anfertigen.
★Faire 3 jeux.

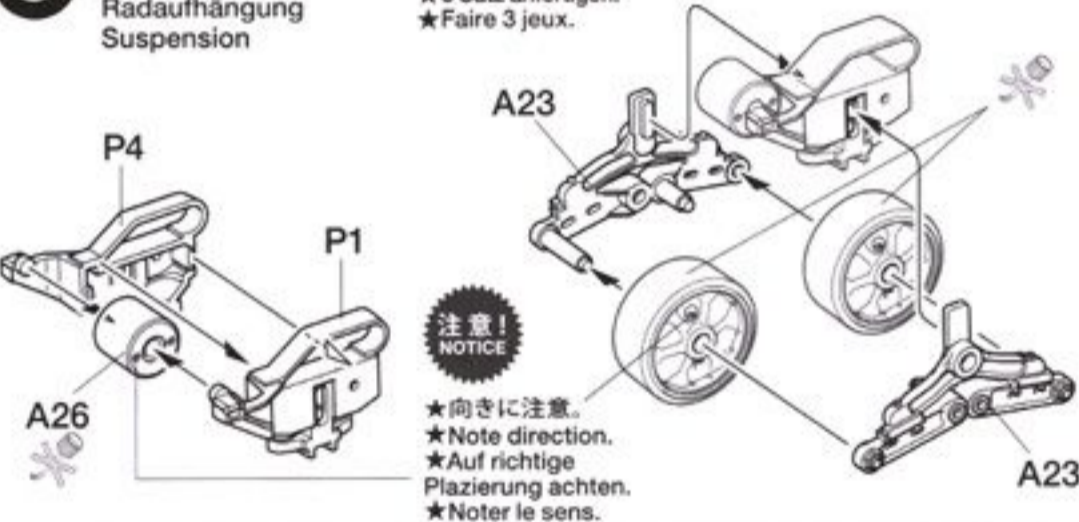


注意!
NOTICE
★向きに注意。
★Note direction.
★Auf richtige
Plazierung achten.
★Noter le sens.

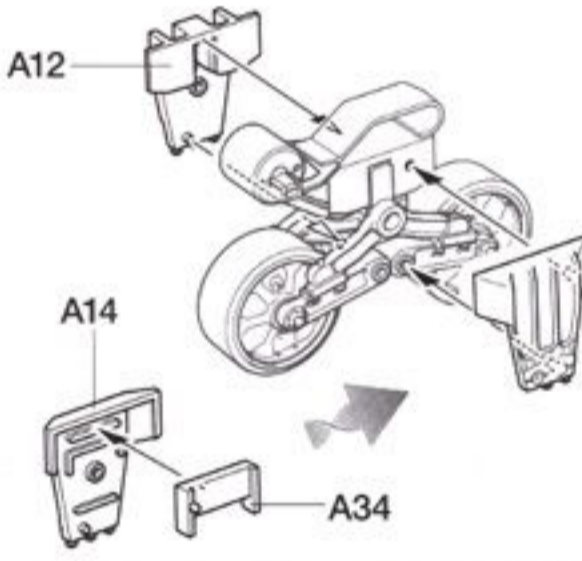


8 《サスペンション》《R》
Suspension
Radaufhängung
Suspension

★3個作ります。
★Make 3.
★3 Satz anfertigen.
★Faire 3 jeux.

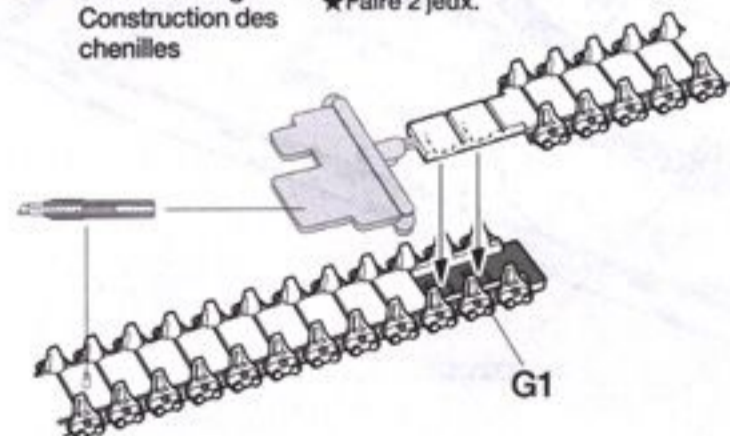


注意!
NOTICE
★向きに注意。
★Note direction.
★Auf richtige
Plazierung achten.
★Noter le sens.



9 履帯の作り方
Track construction
Kettenmontage
Construction des
chenilles

★2個作ります。
★Make 2.
★2 Satz anfertigen.
★Faire 2 jeux.



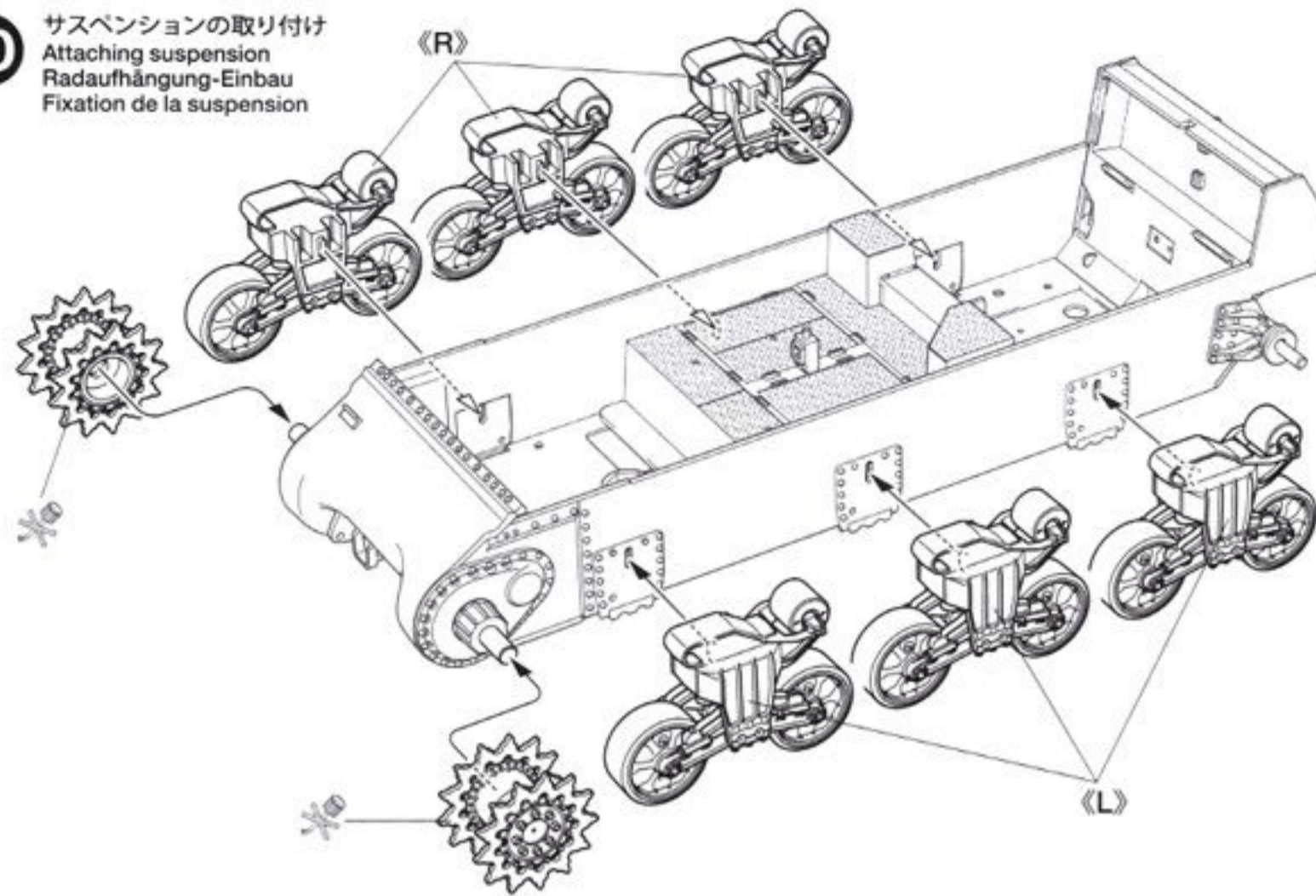
●接着剤が他の部分につかないように履帯の端を図のようにはめ込み、接着します。このとき、接合部がはがれやすいのでしっかり接着してください。
●履帯の接着剤がかわくまで車体下部に取り付けしないでください。また履帯が切れてしまった時は黒糸やホッチキスなどで補強してください。

●The tracks in this kit can be glued using plastic cement.
●Attach track to hull after cement has completely cured. If track breaks, join with staples or thread.

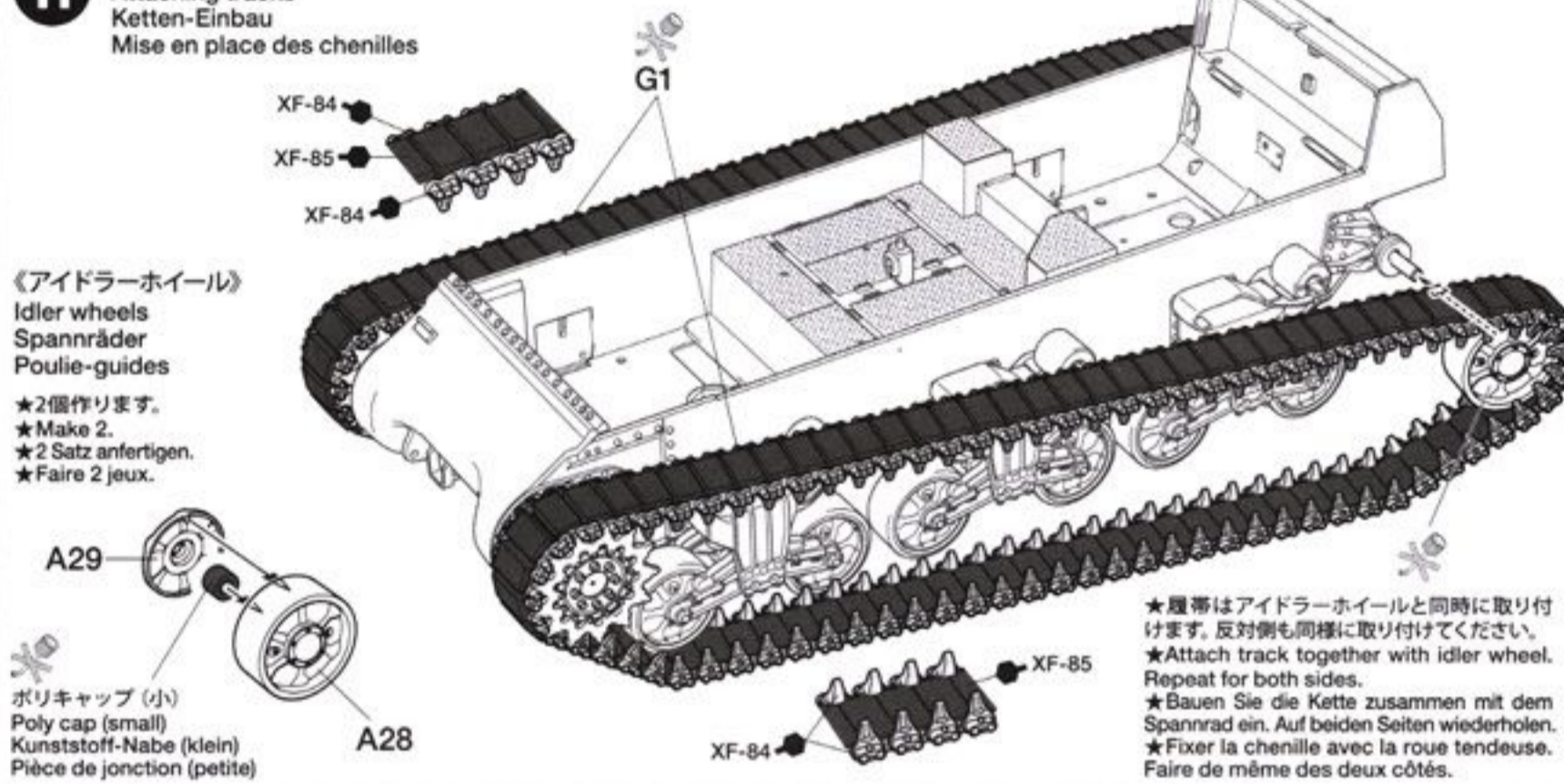
●Die Ketten dieses Bausatzes mit Plastik-Kleber zusammenkleben.
●Wenn der Kleber ausgetrocknet ist, Ketten auf Wanne aufziehen. Falls Kette reißt, mit Draht oder Faden zusammenhalten.

●Les chenilles de ce kit peuvent s'assembler à l'aide de colle pour maquettes plastique standard.
●Après séchage installer les chenilles sur les trains de roulement. Si une chenille casse, on peut la réparer à l'aide d'une agrafe ou d'un fil.

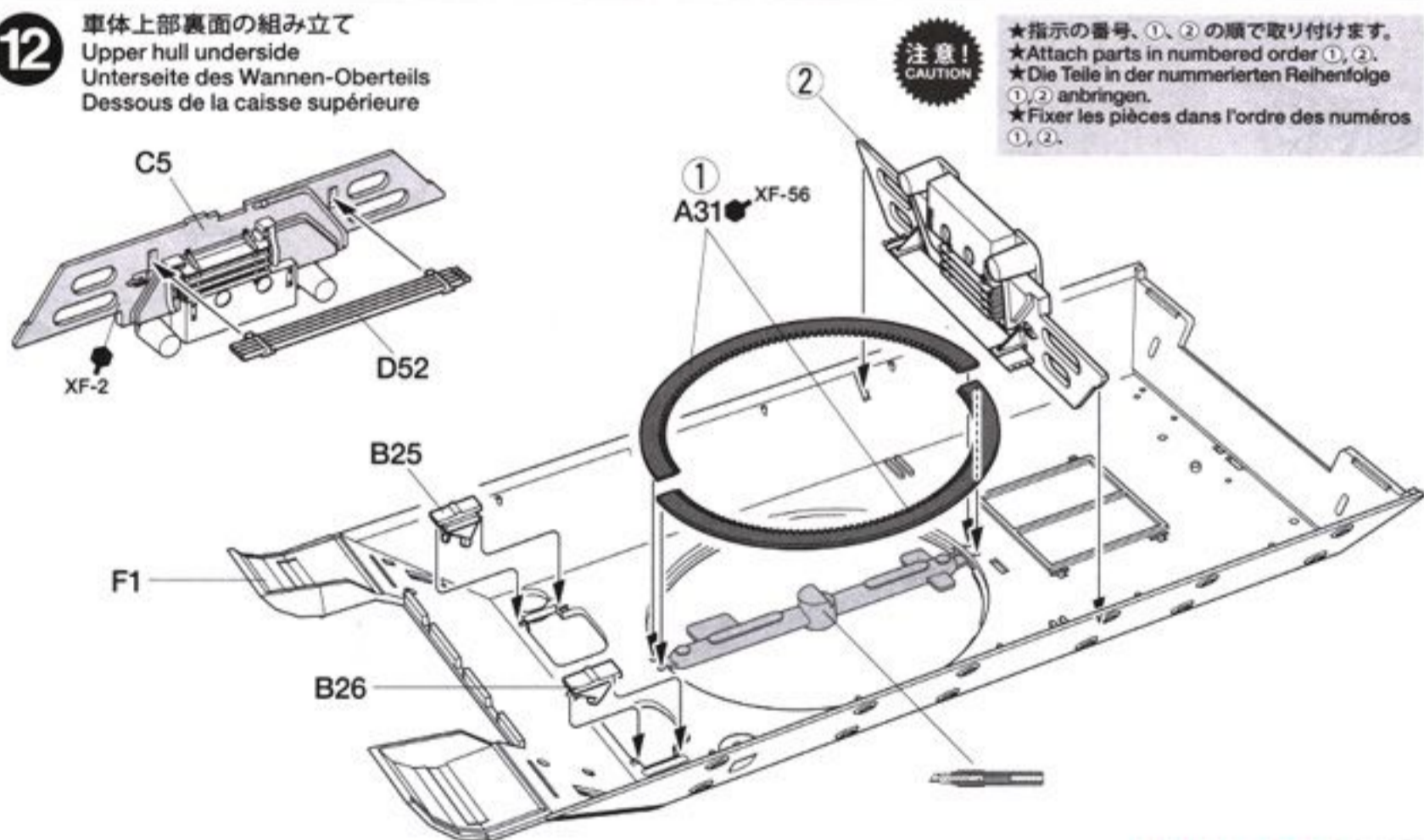
10 サスペンションの取り付け
Attaching suspension
Radaufhängung-Einbau
Fixation de la suspension

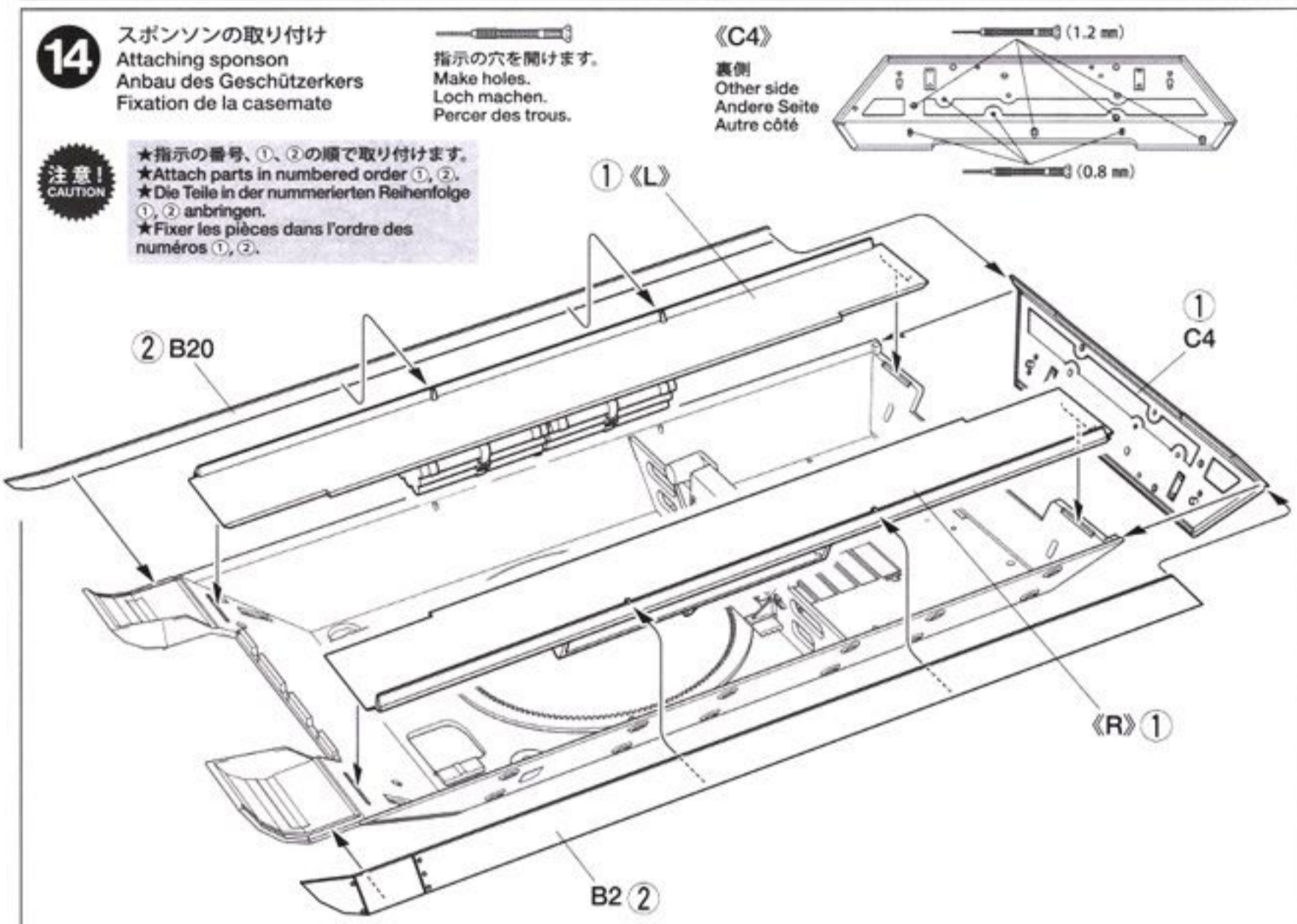
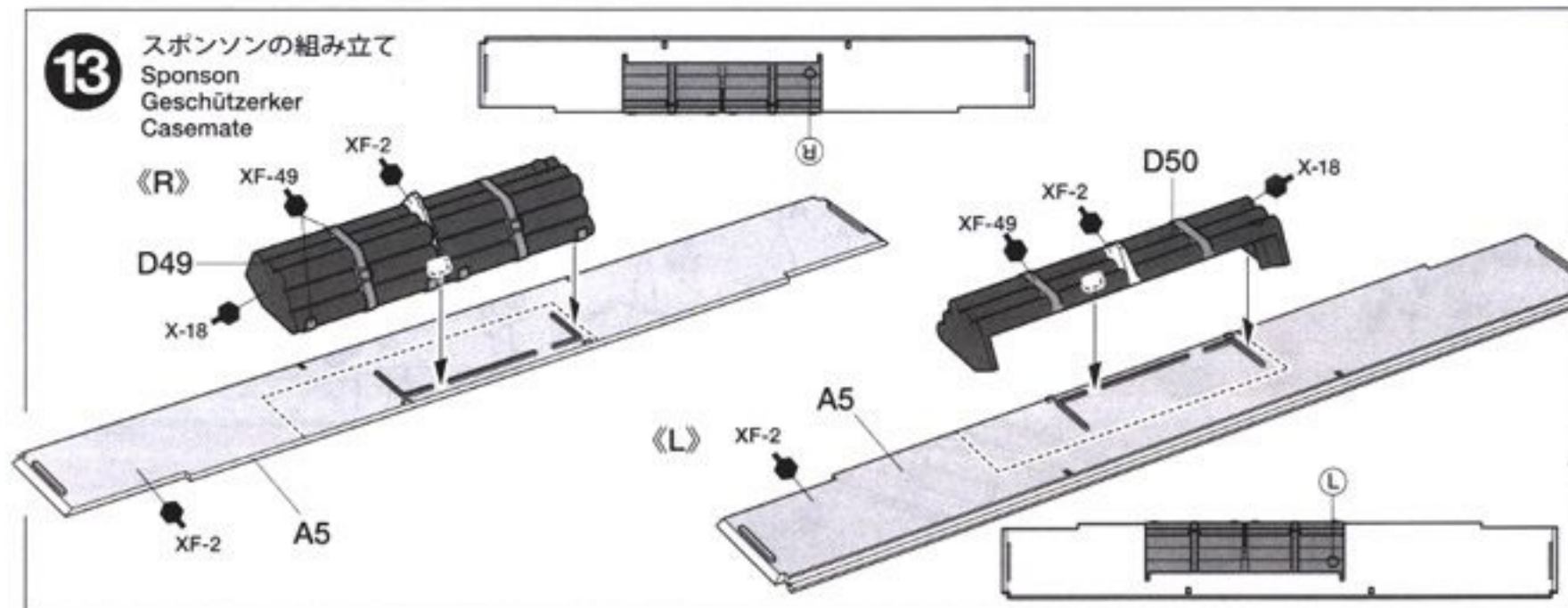


11 履帯の取り付け
Attaching tracks
Ketten-Einbau
Mise en place des chenilles



12 車体上部裏面の組み立て
Upper hull underside
Unterseite des Wannen-Oberteils
Dessous de la caisse supérieure

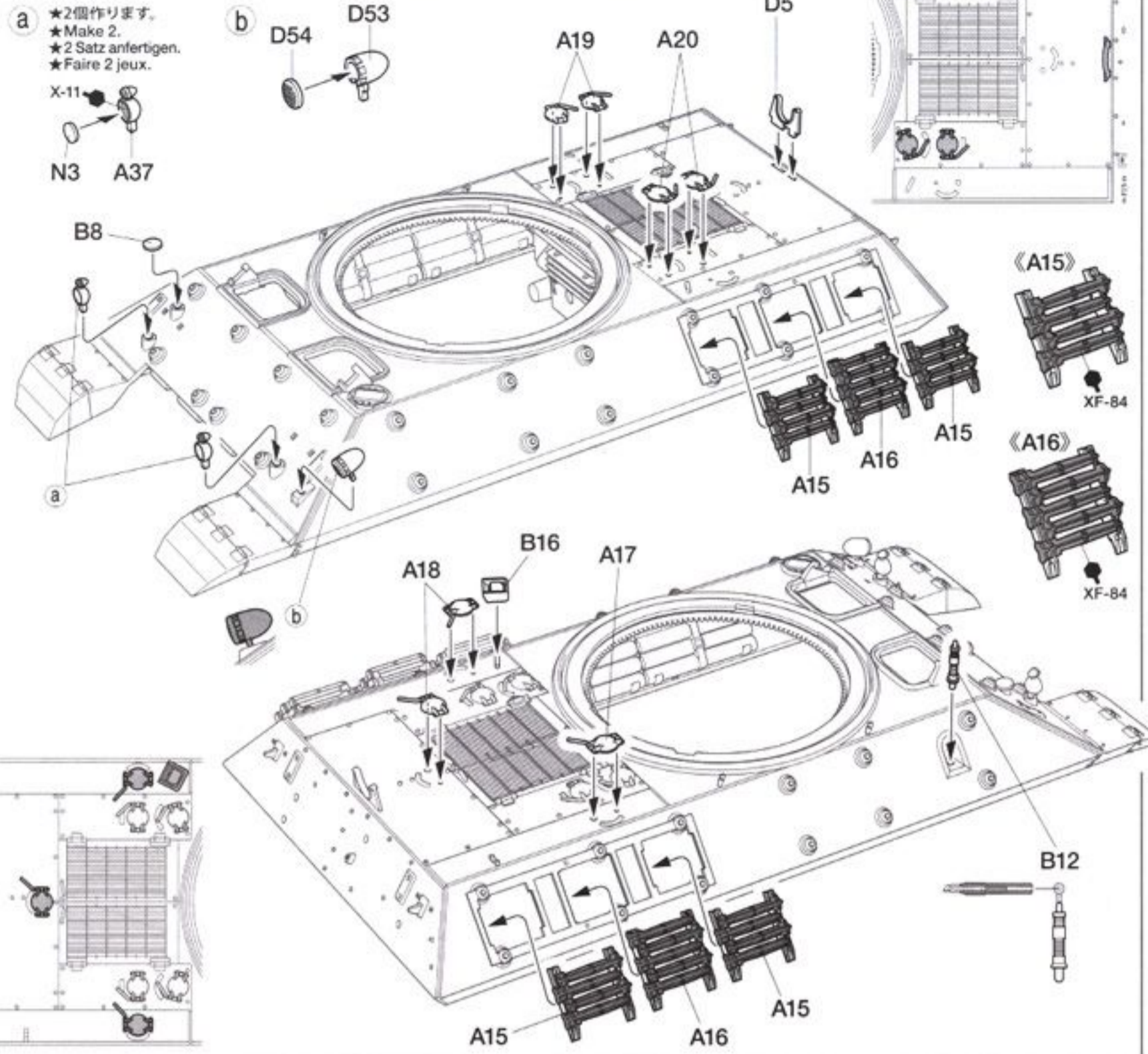




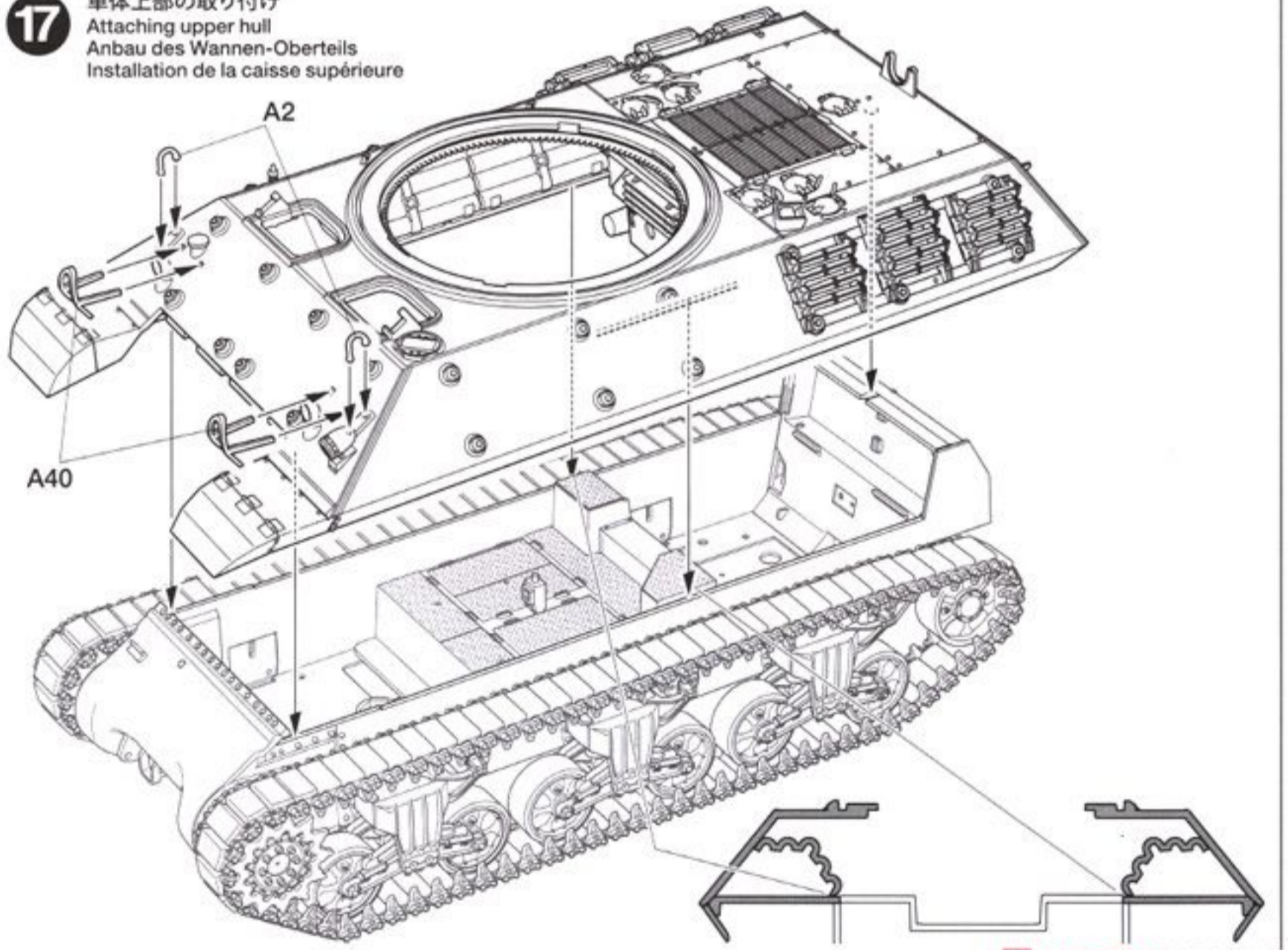
16

車体上部部品の取り付け
 Attaching upper hull parts
 Einbau der Teile des Wannen-Oberteils
 Fixation des équipements de la caisse supérieure

★図のように取り付けます。
 ★Attach as shown.
 ★Gemäß Abbildung einbauen.
 ★Fixer comme indiqué.

**17**

車体上部の取り付け
 Attaching upper hull
 Anbau des Wannen-Oberteils
 Installation de la caisse supérieure

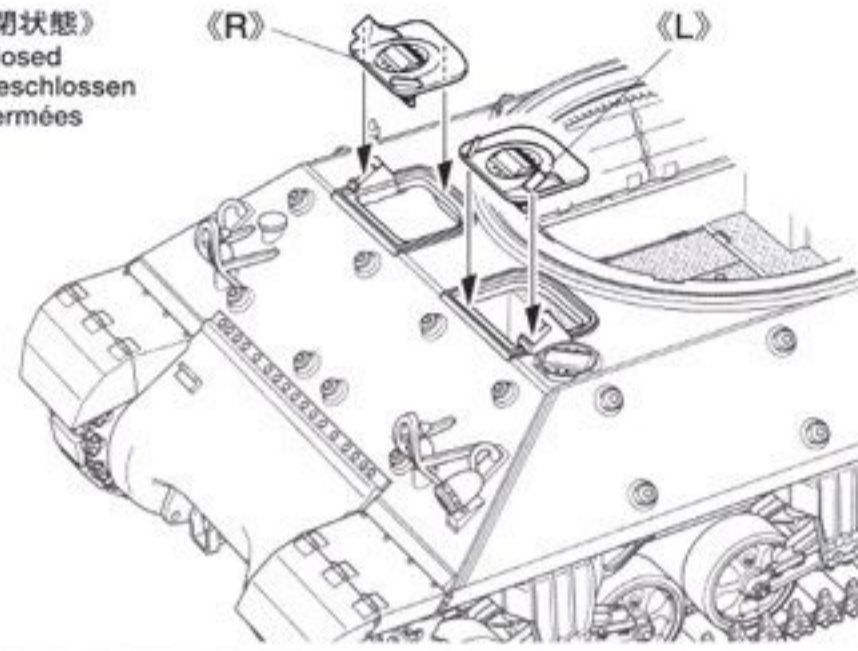


18

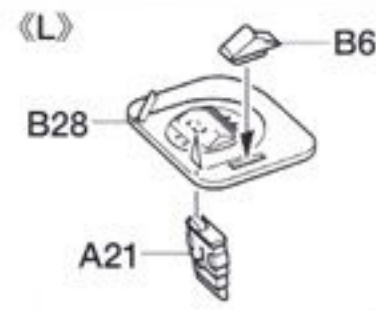
ハッチの取り付け
Attaching hatches
Luken-Einbau
Fixation des trappes

- ★開閉どちらかの状態を選びます。
- ★Attach hatches in open or closed position.
- ★Die Luken entweder geöffnet oder geschlossen anbringen.
- ★Fixer les trappes ouvertes ou fermées.

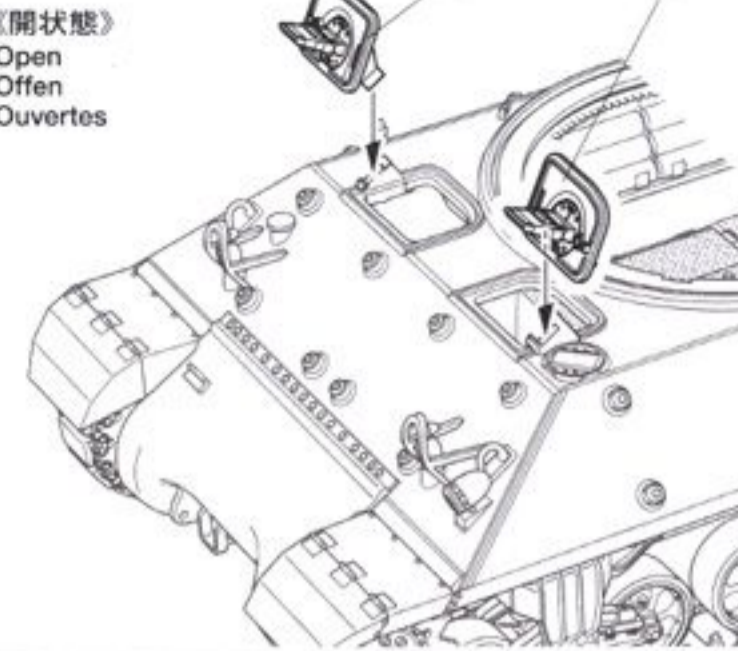
《閉状態》
Closed
Geschlossen
Fermées



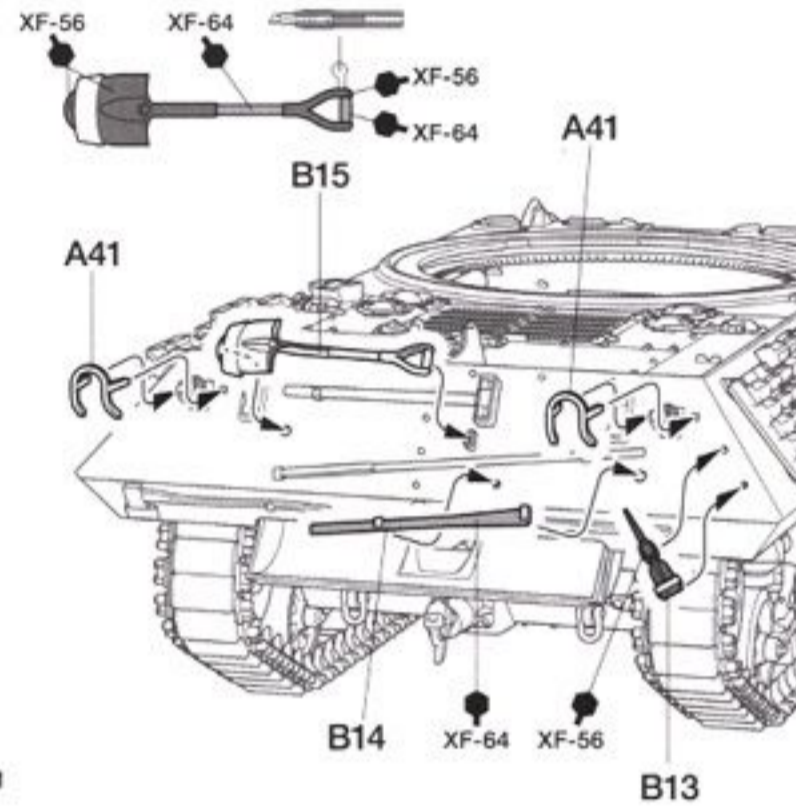
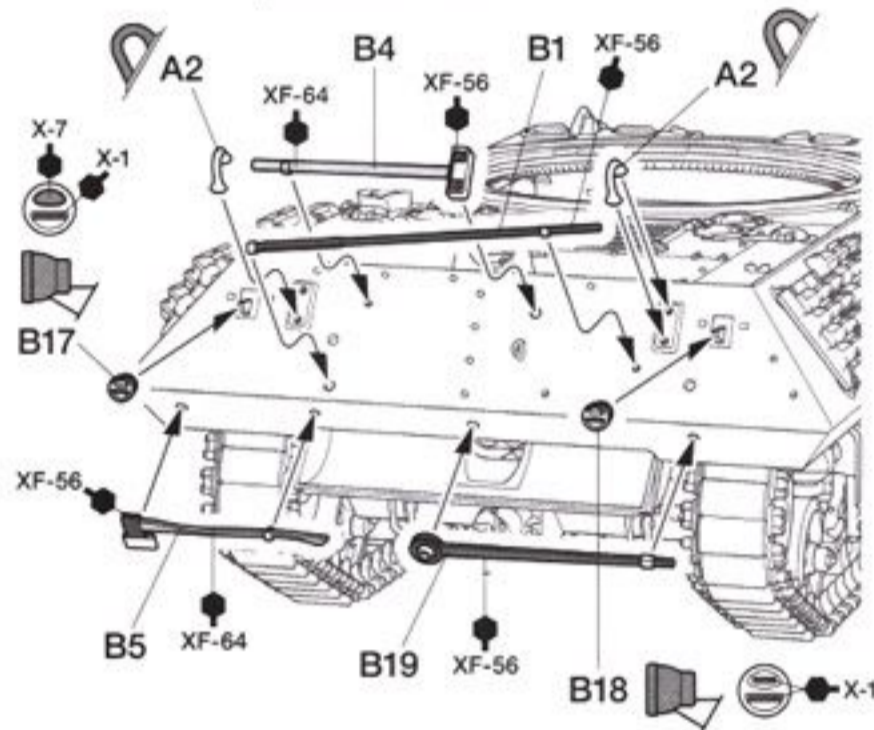
《L》



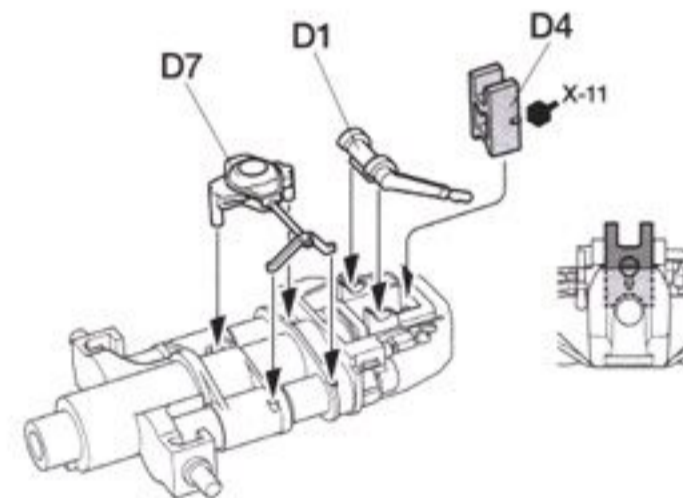
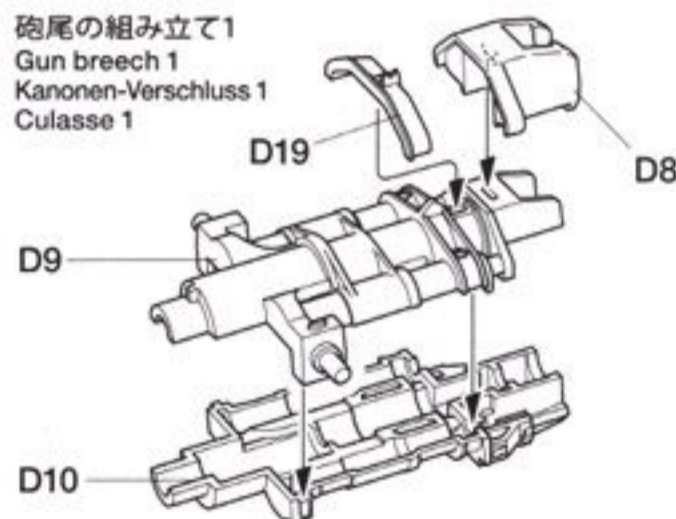
《開状態》
Open
Offen
Ouvertes

**19**

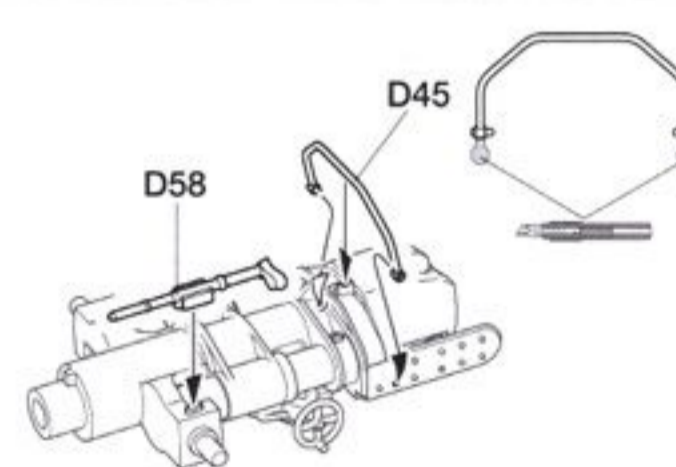
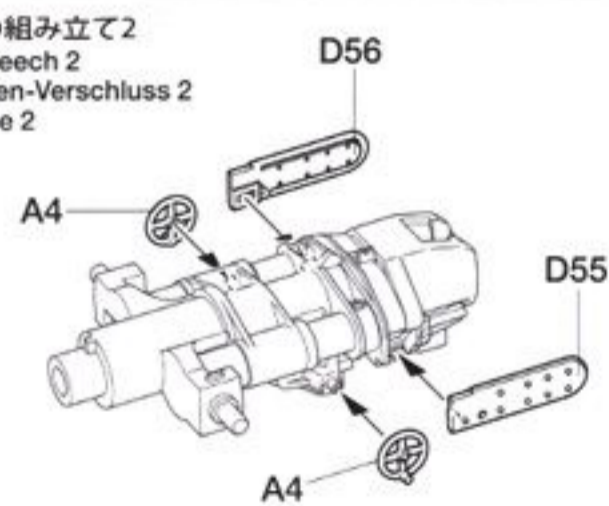
車体後部部品の取り付け
Attaching rear hull parts
Anbringung der hinteren Wannenteile
Fixation des pièces de la caisse arrière

**20**

砲尾の組み立て1
Gun breech 1
Kanonen-Verschluß 1
Culasse 1

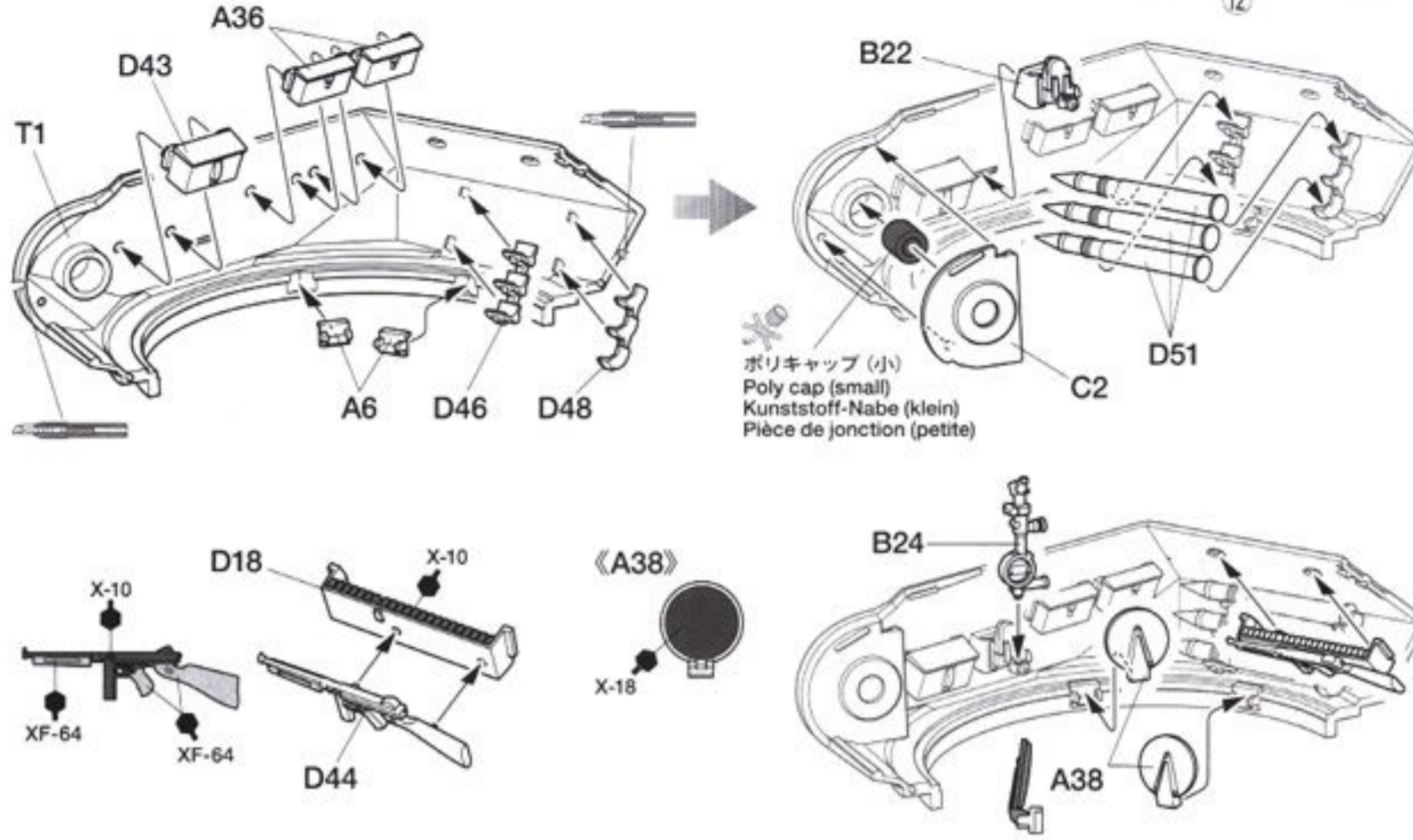
**21**

砲尾の組み立て2
Gun breech 2
Kanonen-Verschluß 2
Culasse 2

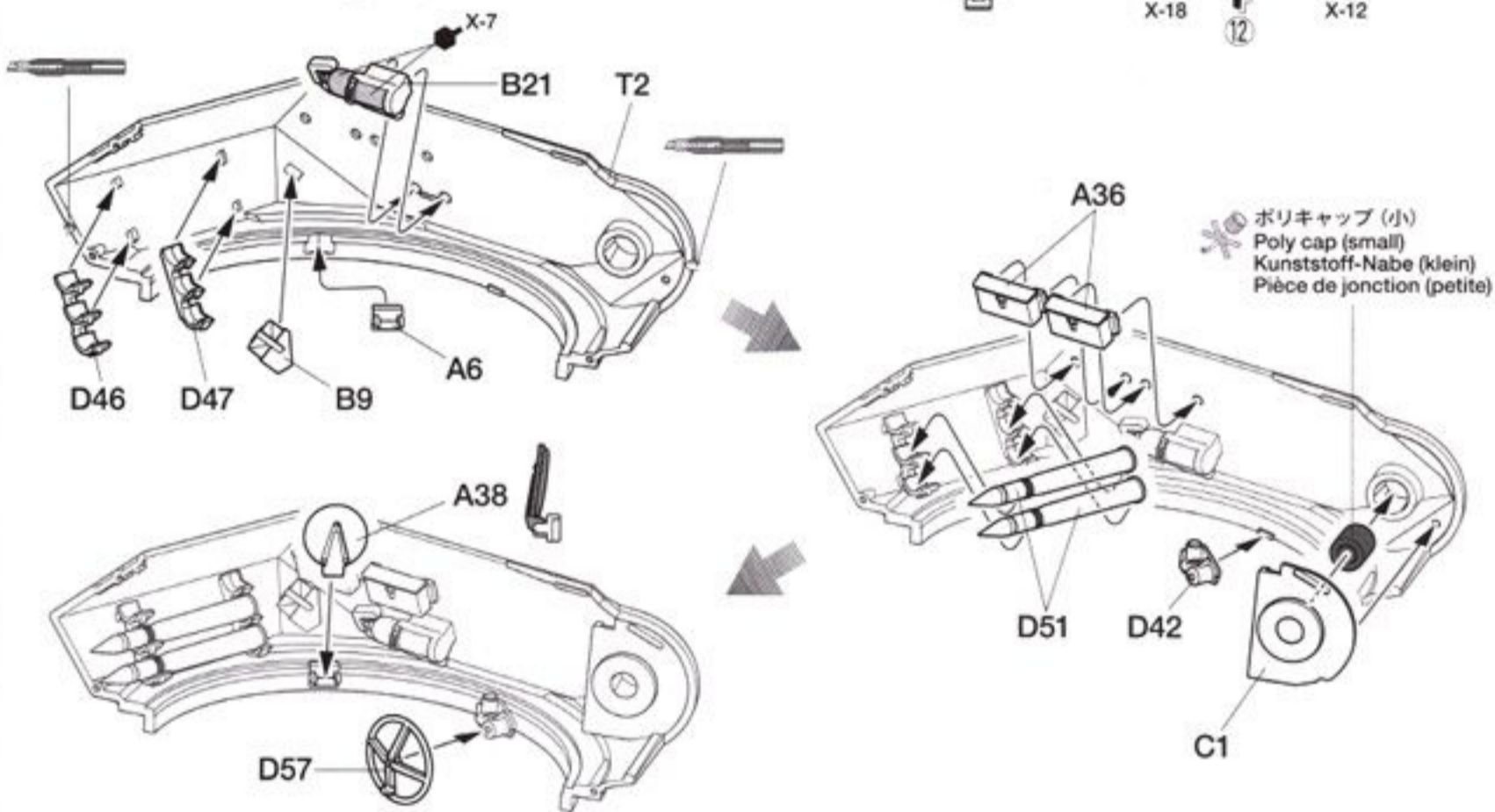


22 砲塔内側の組み立て (右側)
Turret interior (right)
Turm-Innenausstattung (rechts)
Intérieur de la tourelle (droite)

指示の番号のスライドマークをはります。
Number of decal to apply.
Nummer des Abziehbildes, das anzubringen ist.
Numéro de la décalcomanie à utiliser.

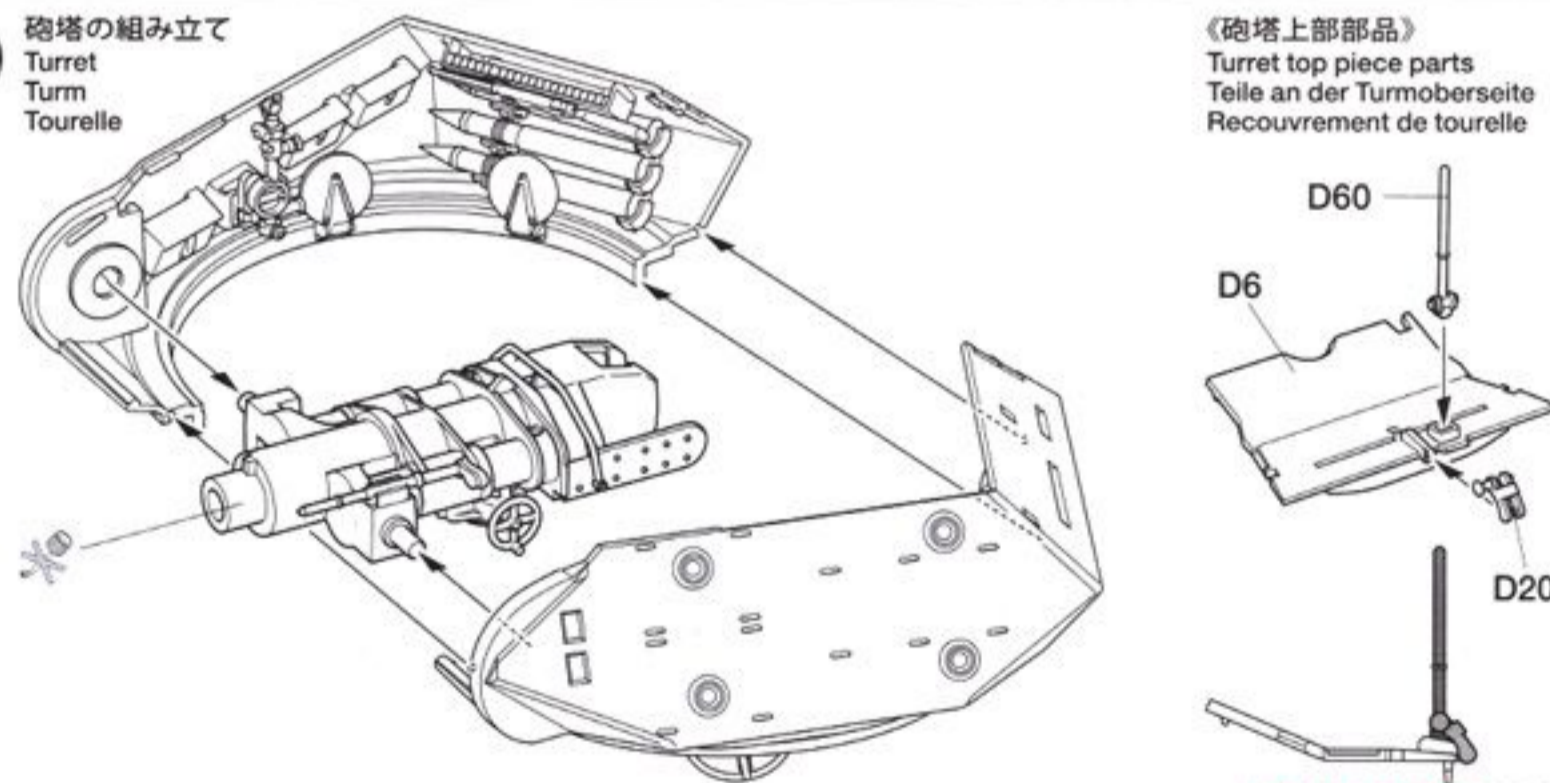


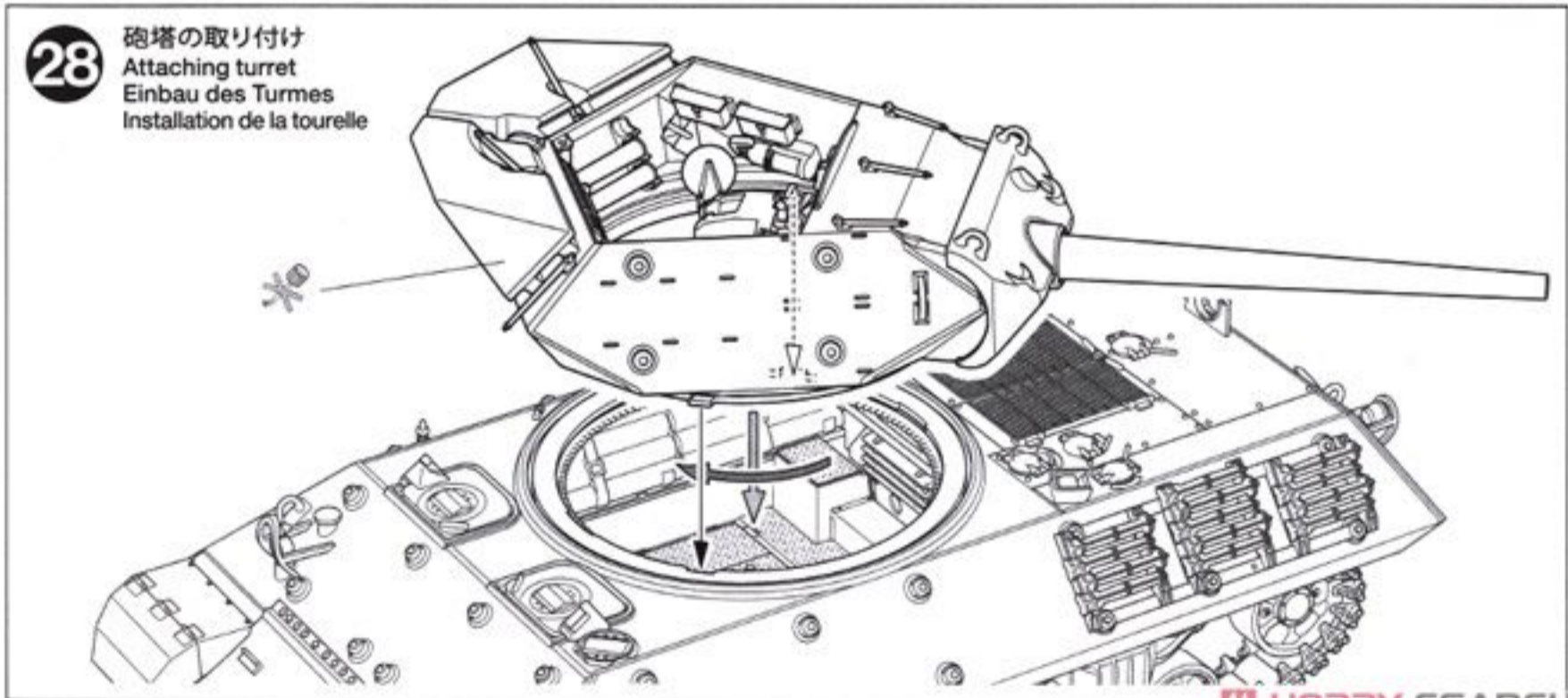
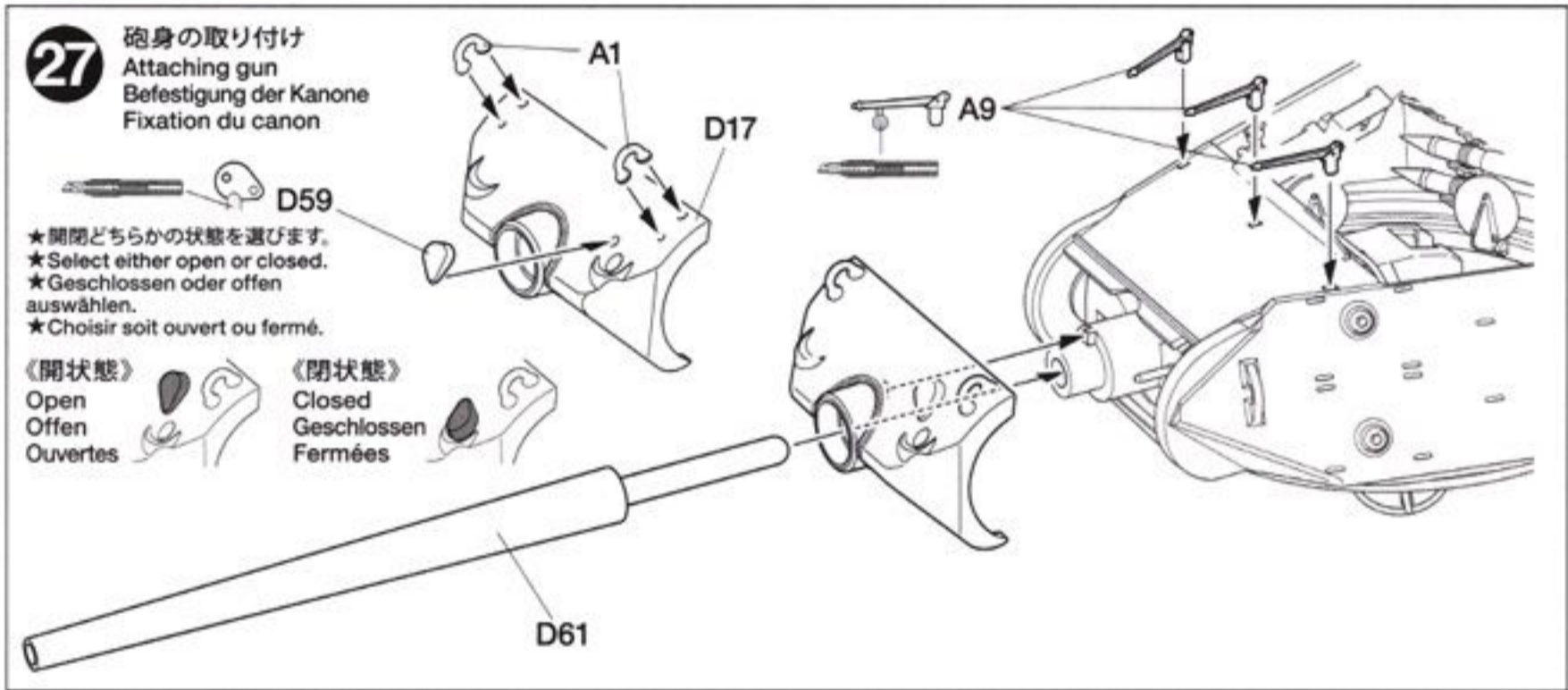
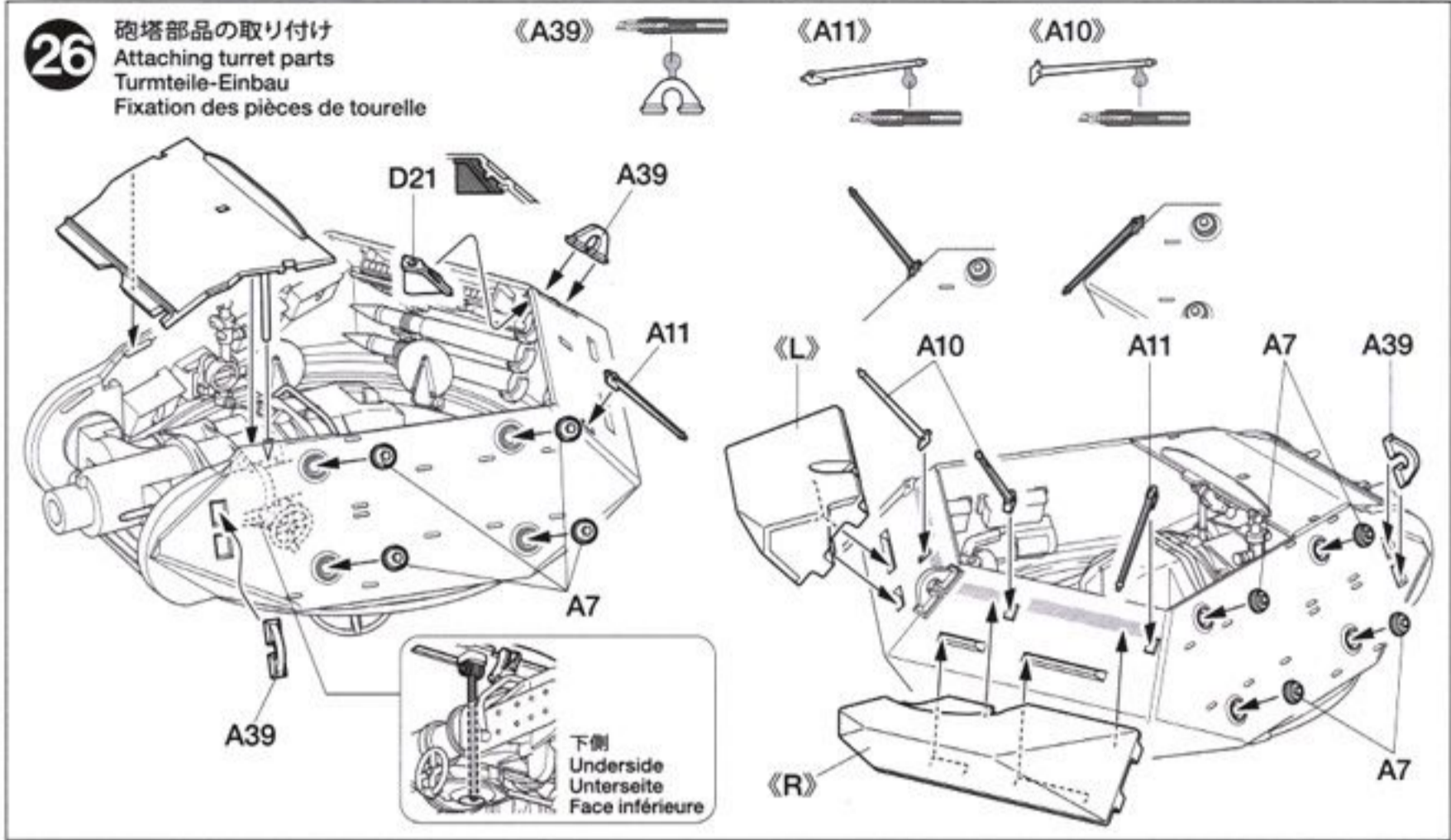
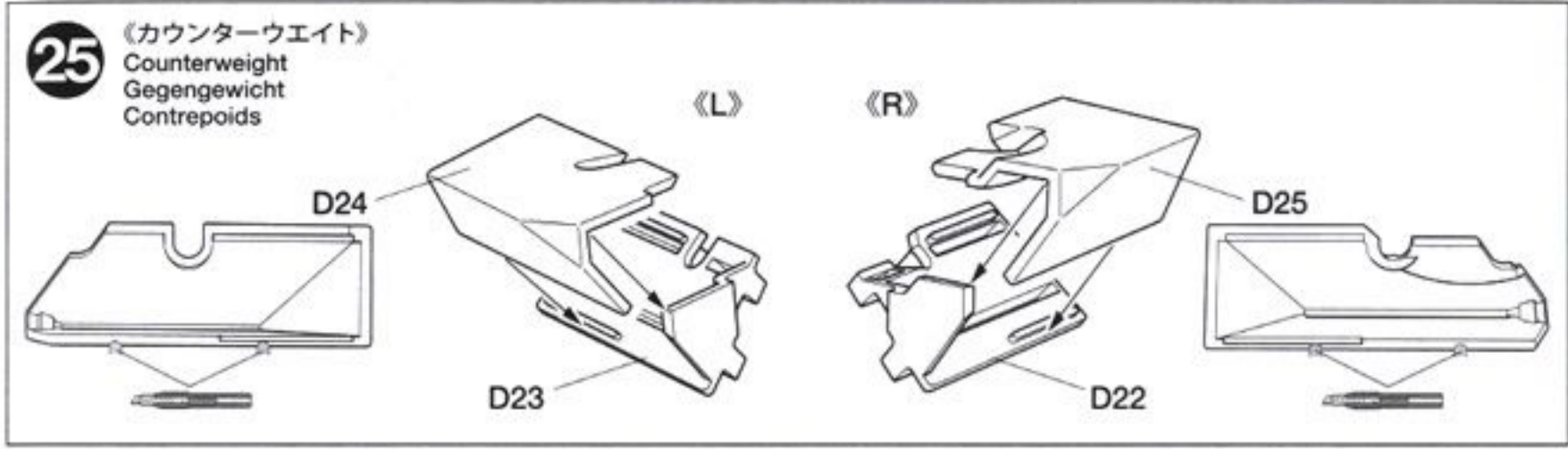
23 砲塔内側の組み立て (左側)
Turret interior (left)
Turm-Innenausstattung (links)
Intérieur de la tourelle (gauche)

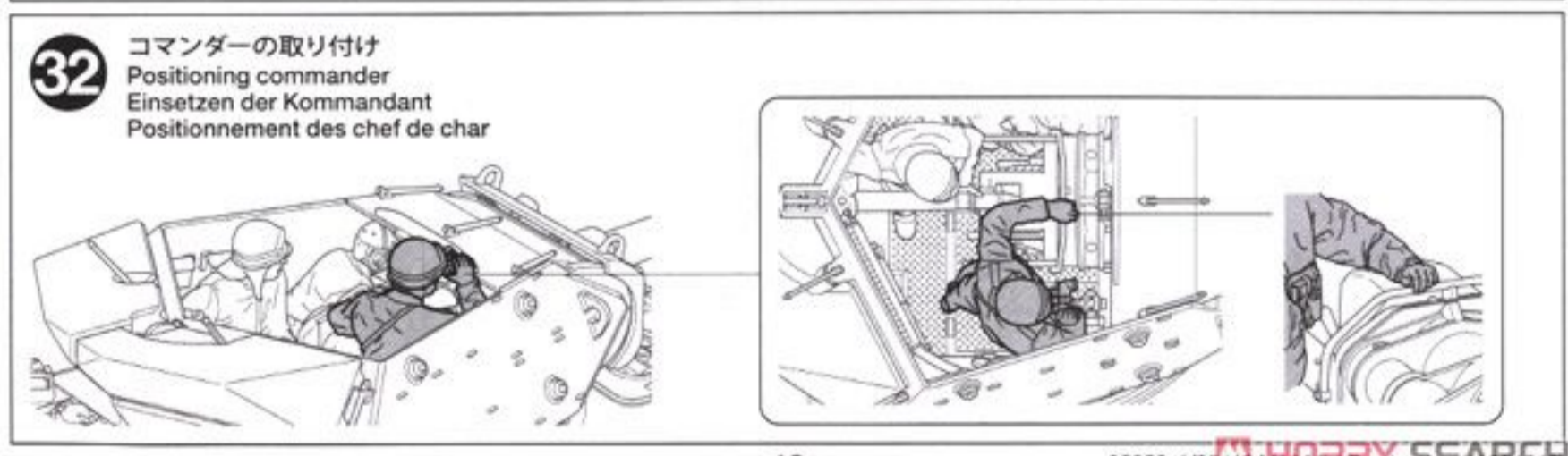
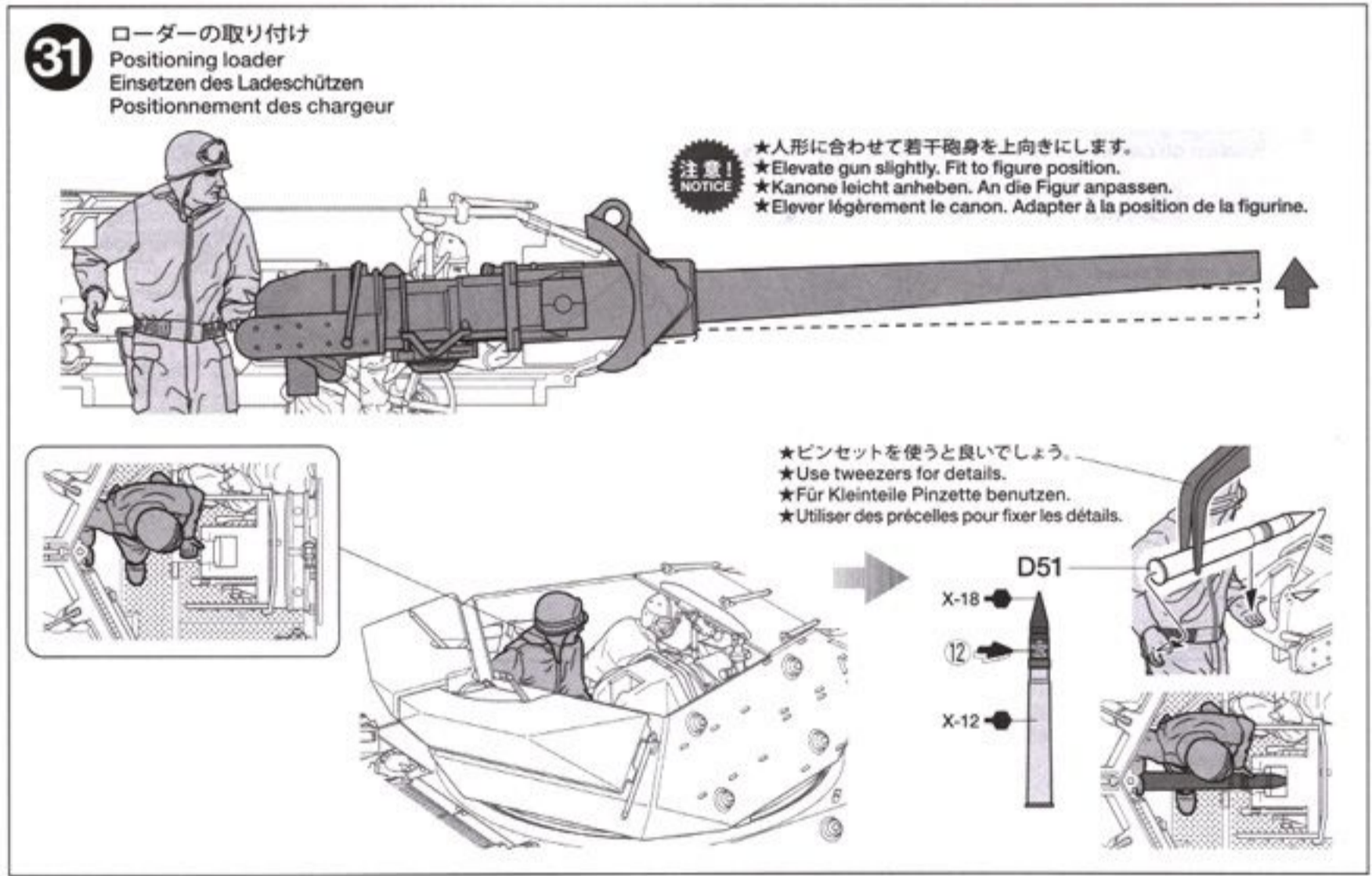
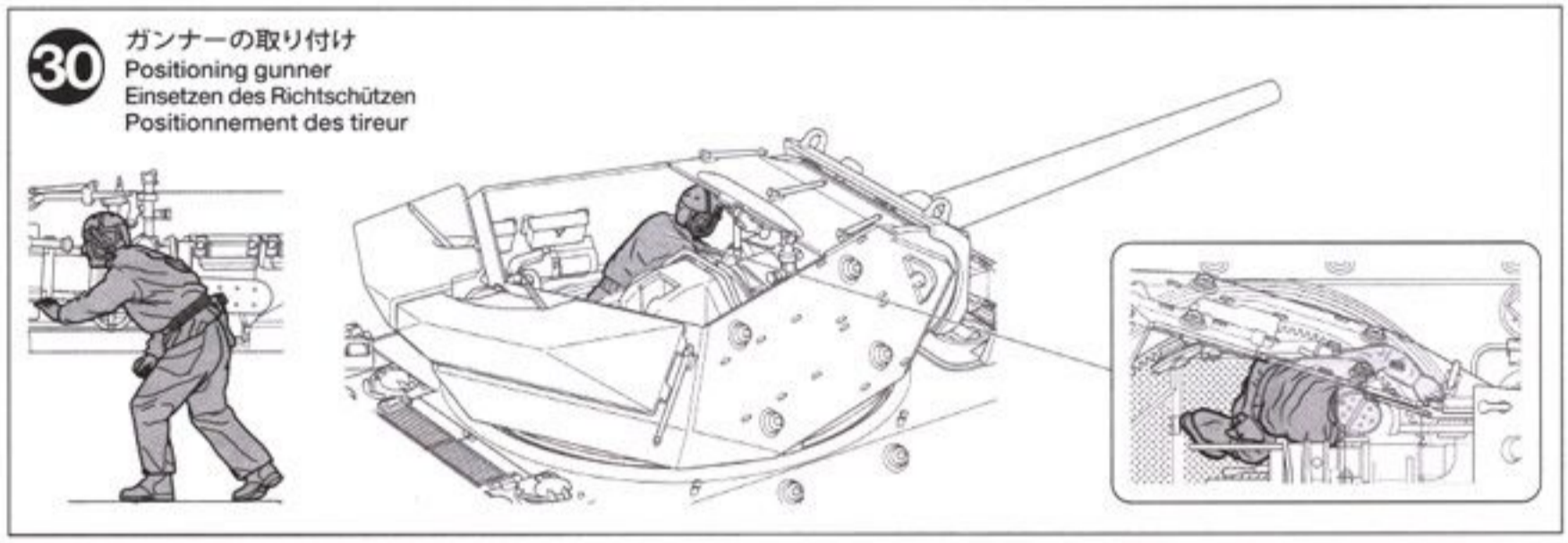
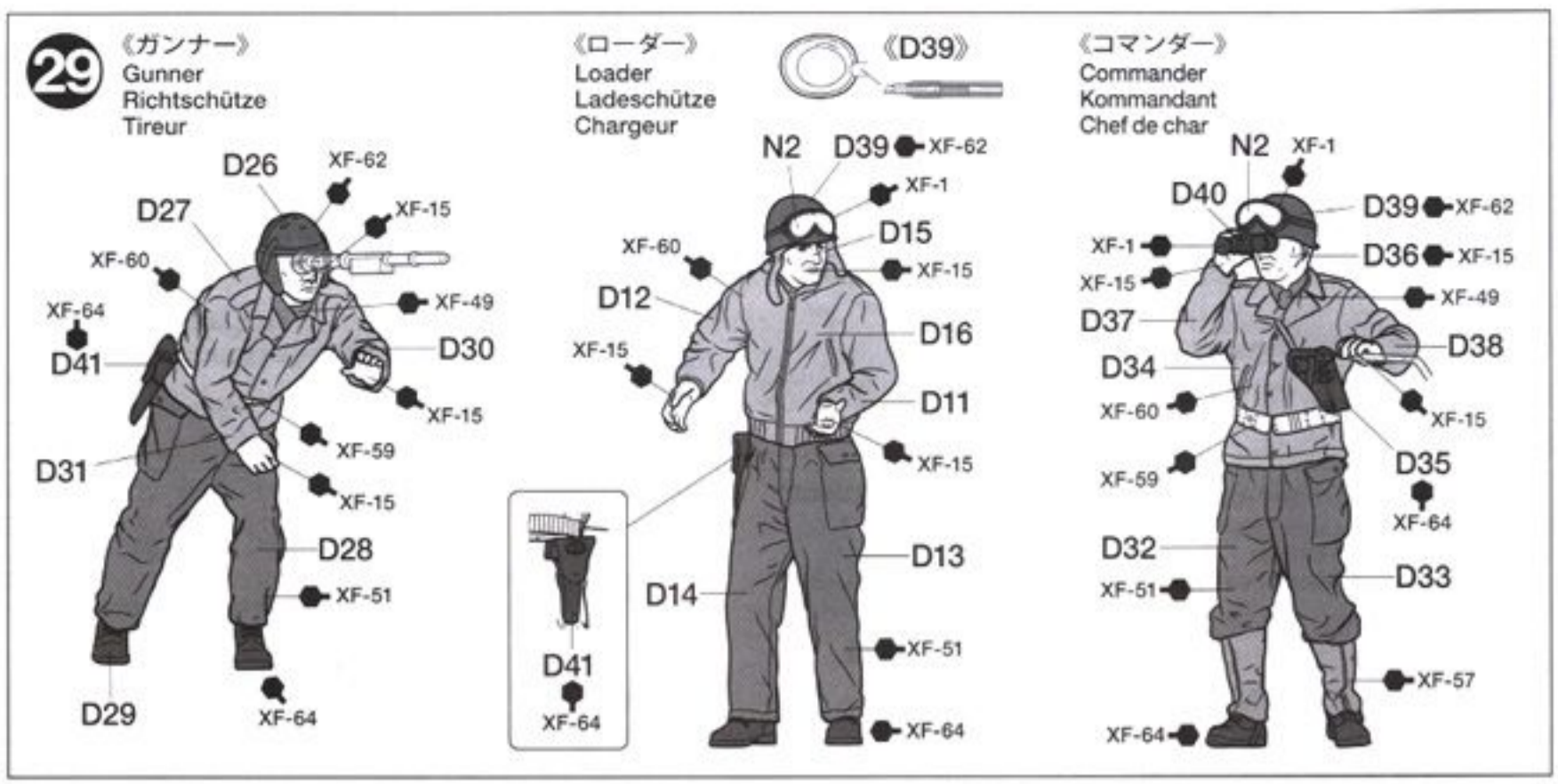


24 砲塔の組み立て
Turret
Turm
Tourelle

《砲塔上部部品》
Turret top piece parts
Teile an der Turmoberseite
Recouvrement de tourelle



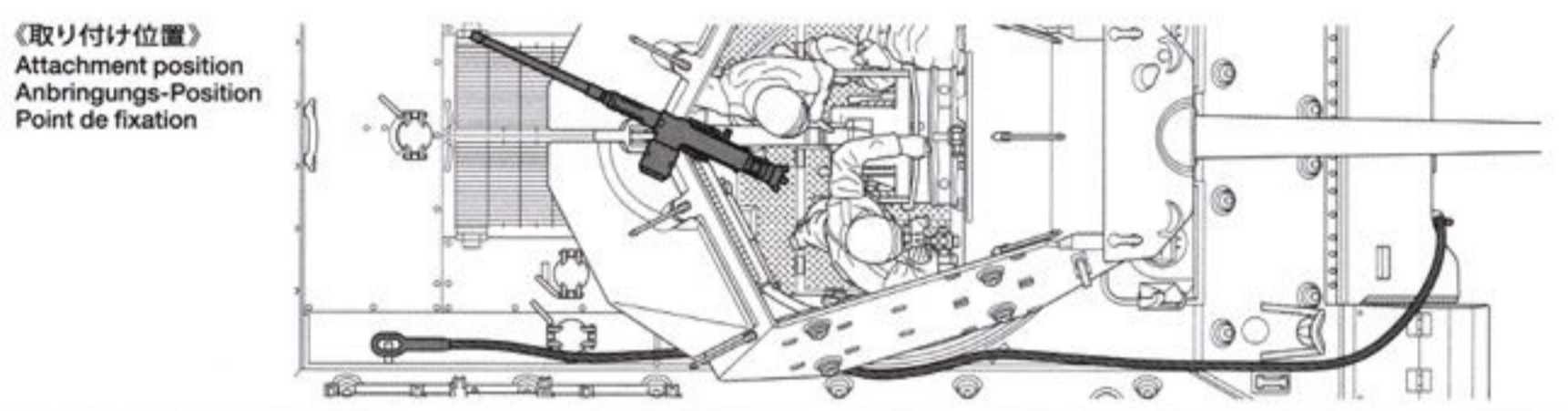
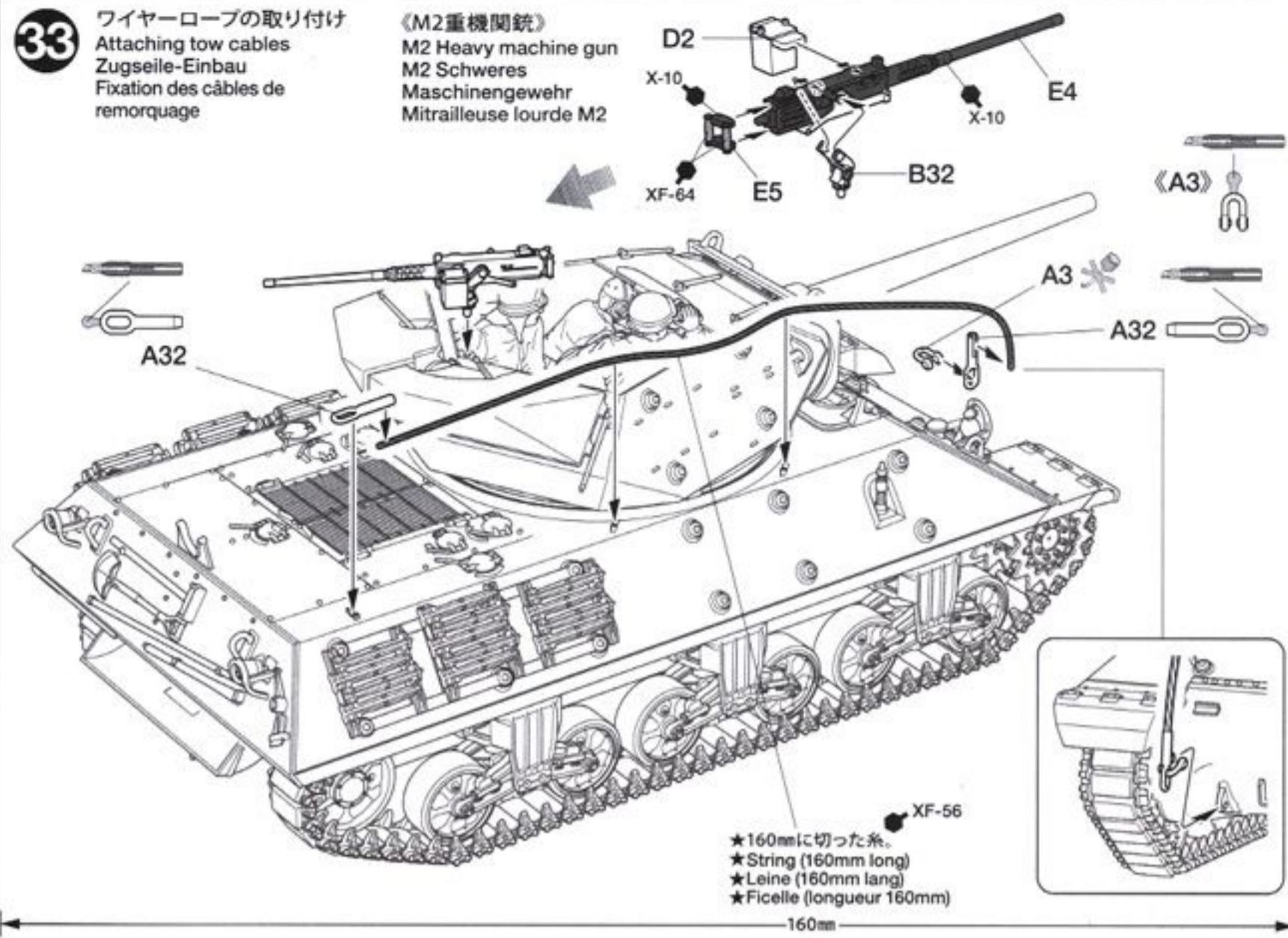




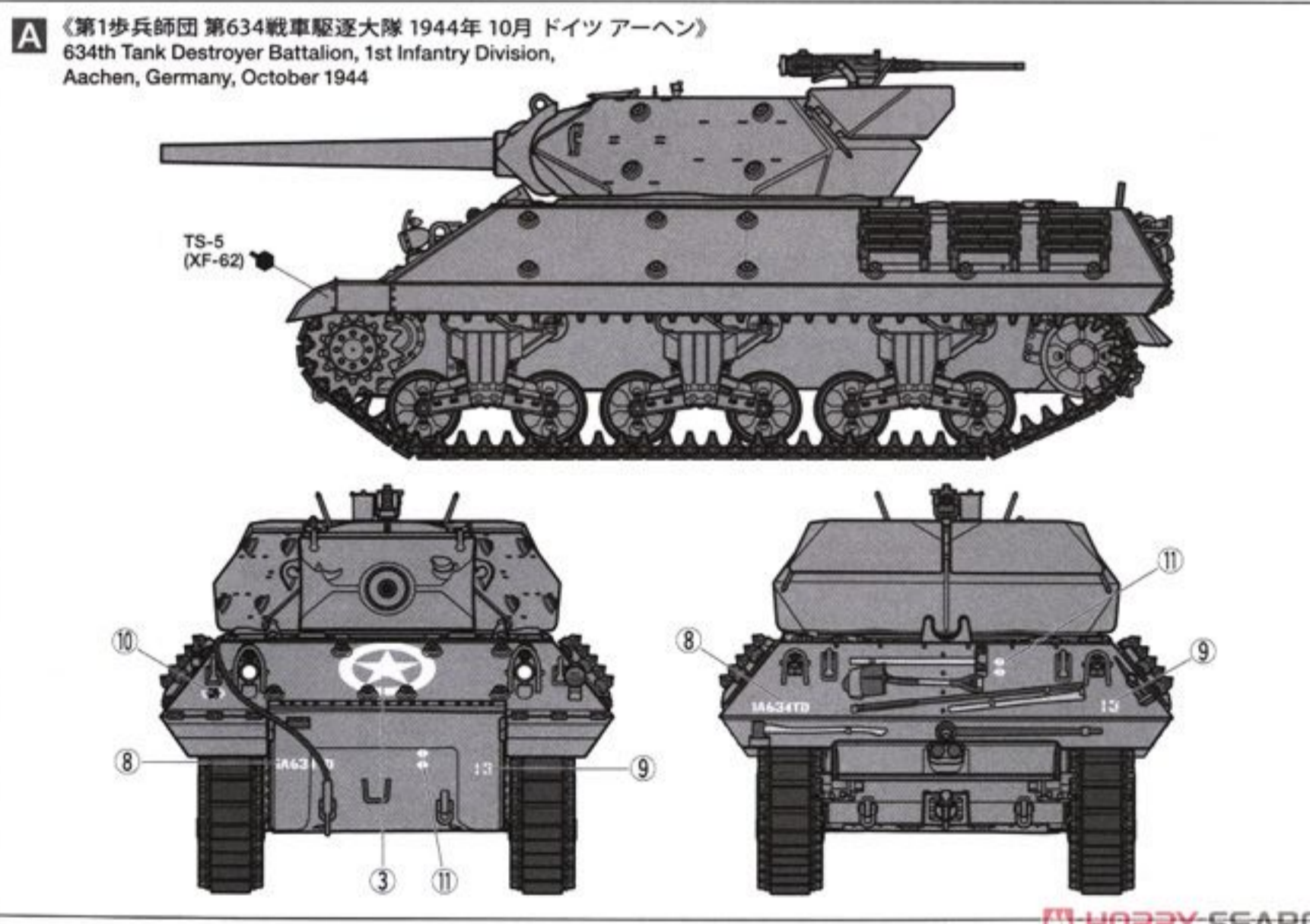
33

ワイヤーロープの取り付け
Attaching tow cables
Zugseile-Einbau
Fixation des câbles de remorquage

《M2重機関銃》
M2 Heavy machine gun
M2 Schweres
Maschinengewehr
Mitrailleuse lourde M2



PAINTING & MARKING



■ Countering the Blitzkrieg

Though not directly involved in events across the Atlantic, U.S. military planners drew valuable lessons from the German blitzkrieg of France in June 1940, prompting development of the M3 and M4, and a doctrine calling for the use of new heavily-armed, mobile tank destroyers, dedicated to neutralizing concentrated armor breakthroughs typical of German tactics. After discarding various modified truck and half-track vehicles the use of a new design was decided upon.

■ Development of the M10

While the early M9 tank destroyer design was a failure, its limited turret traverse left little doubt as to the need for a fully-rotating turret, and one was used on the T35 prototype that was forerunner to the M10. The M4A2 Sherman chassis was the base for a T35 mock-up in January 1942, which had a circular open-top and rear turret mounting a 3-inch gun. By the time General Motors' Fisher Body Tank Arsenal produced two prototypes in April 1942, combat experience had proven the effectiveness of low, sloped hulls. It was of little surprise, then, when the T-35E1 prototype with its well-sloped armor was chosen over the T35, and adopted as the M10 that June. 4,933 M10s were produced between September 1942 and December 1943.



■ Construction and Design

The prototype design was modified after its official adoption as the M10. While outwardly similar, upper hull armor was reduced to 38.1mm on the glacis and 19.05mm on upper side sections; the designers were relying on its optimized sloping overcoming the now rather notable thinness. As a contingency, however, bosses facilitating fixation of auxiliary armor were affixed to upper hull front and sides, plus turret sides. The lower hull had 25.4mm side and rear armor, and 12.7mm underside protection, thinner than its M4A2 base although maintaining the same shape. The turret was also altered, concerns about protection seeing the cast prototype discarded in favor of a rolled steel 5-sided open-top design with 57.15mm thick mantlet and 25.4mm sides and rear. Early production variants had a square counterweight on the

turret rear, later replaced with a refined wedge-shaped piece. Eventually, the counterweight design was honed further and the turret rear wall made almost vertical to secure internal space. Firepower was taken care of by the L/50 3-inch (76.2mm) M7 gun, on the M5 mount its armor piercing capped (APC) rounds could defeat 88mm of 30-degree armor at 914m and 75mm at 1,829m (potentially 135mm and 98mm respectively with high velocity rounds), a marked improvement over the M4A2's 75mm weapon. Its General Motors 6046 diesel was that from the M4A2, although it should be noted that a Ford GA gasoline engine-powered M10A1 variant was also produced to keep up with demand, but only used on training maneuvers.

■ The M10 in Service

Operation Torch, the invasion of North Africa, began on November 8, 1942. The first M10s joined it in March 1943, and belonged to the 776th and 899th Tank Destroyer Battalions; C Company of the 899th successfully repelled Pz.Kpfw.IVs of the German 10th Panzer Division in the Battle of El Guettar on March 23rd, before in April becoming the first U.S. unit to link up with British 8th Army units breaking through from Egypt. M10-equipped Tank Destroyer Battalions also took part in the Invasion of Italy that Autumn, among them the 601st, which landed at Salerno in September and later halted German counterattacks around Anzio. In August of 1944, 601st M10s joined Operation Dragoon, the invasion of southern France. The storied Normandy invasions also included Tank Destroyer Battalions such as the 634th, which landed at Utah Beach on June 30th and engaged German forces around Carentan on July 10th, Mayenne later that month, and Mortain in August. Their M10s increasingly used for infantry support, the 634th would move eastwards as the Allied advance continued through France and Belgium; by October, they had penetrated into Aachen on German soil. M10 and newer 90mm gun M36 tank destroyers fought side by side after the latter's introduction. The M10 also joined battle in the Pacific Theater, in Kwajalein (February 1944) and Palau (June 1944).

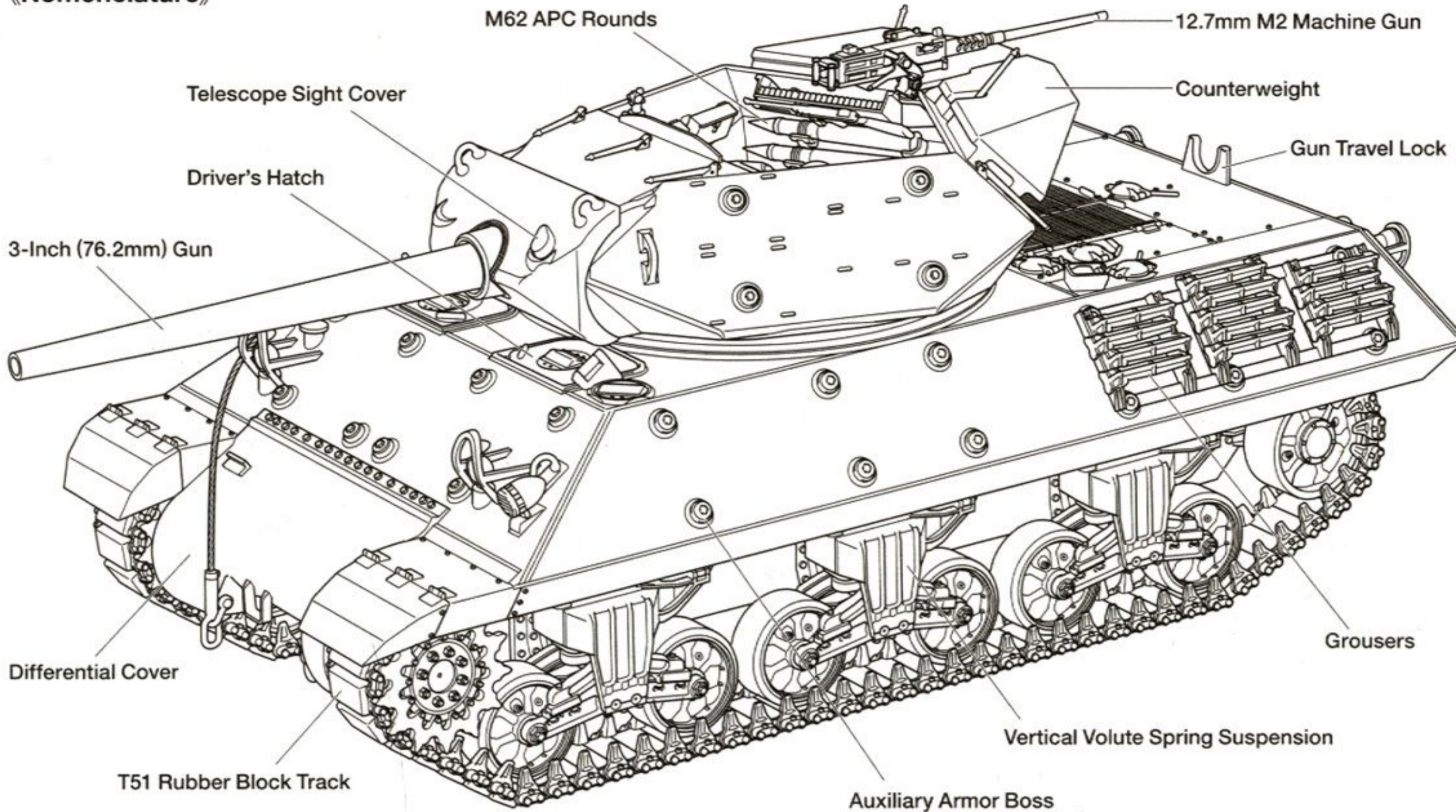
■ M10 Specifications

- Length: 6,828mm ● Width: 3,048mm ● Height: 2,896mm
- Fully-Loaded Weight: 29.574 tons ● Crew: 5
- Engine: General Motors 6046 2-stroke 12-cylinder liquid cooled diesel engine
- Maximum Output: 410hp (at 2,900rpm)
- Maximum Speed: 48.28km/h
- Range: 322km (road surfaces)
- Armament: 3-inch anti-tank gun M7 x1 & 54 rounds, 12.7mm M2 heavy machine gun x1 & 1,000 rounds
- Hull Armor: 38.1mm (upper glacis), 50.8mm (lower glacis), 19.05mm (upper sides, upper rear), 25.4mm (lower sides, lower rear); Turret: 57.15mm (mantlet), 25.4mm (sides, rear)

U.S. TANK DESTROYER M10 MID PRODUCTION



《Nomenclature》



HOBBI SEAS

Customers who checked U.S. Tank Destroyer M10 Mid Production (Plastic model) also checked



[U.S. Medium Tank M46 Patton \(Plastic Model\)](#)
Takom
1/35
5,865 yen



[Afghan Motorcade \[1979-1989\] \(Plastic Model\)](#)
ICM
1/72
3,910 yen



[Stratenwerth 16t Strabokran \(Plastic Model\)](#)
Takom
1/35
7,990 yen



[French R39 Light Infantry Tank \(Plastic Model\)](#)
Hobby Boss
1/35
Fighting ...
6,375 yen



[US Airborne Tank M551 Sheridan \(Plastic Model\)](#)
Tamiya
1/35
1/35 Milit...
3,780 yen



[Yak-38U Forger B \(Plastic Model\)](#)
Hobby Boss
1/48
3,825 yen

Close